

授業計画

(令和3年度入学生用)

シラバス
Syllabus

修紅短期大学

目 次

[幼児教育学科]

I. 教養に関する教育科目

生活と環境(講義)	千葉 正・鈴木 美樹子・高橋 秀子・高橋 正紀	1
日本国憲法(講義)	高橋 秀 憲	2
保健と体育(演習)	千葉 正	3
幼児体育(演習)	富田 夕子	5
基礎音楽(演習)	鈴木 美樹子・加藤 裕美	6
幼児音楽(演習)	鈴木 美樹子	8
基礎造形(演習)	佐藤 恵一	9
英語 I (演習)	藤倉 俊彦	10
英語 II (演習)	小野寺 美紀子	12
情報機器演習(演習)	井上 翔	13

II. 専門に関する教育科目

(1) 幼児教育

子どもと健康(演習)	千葉 正	14
子どもと人間関係(演習)	中尾 彩子	15
子どもと環境(演習)	千葉 悟	16
子どもと言葉(演習)	佐々木 悦子	17
子どもと表現(演習)	鈴木 美樹子	18
身体表現(演習)	千葉 正・富田 夕子	19
造形表現(演習)	佐藤 恵一	20
保育内容「健康」の指導法(演習)	千葉 正	21
保育内容「人間関係」の指導法(演習)	中尾 彩子	22
保育内容「環境」の指導法(演習)	千葉 正・千葉 悟	23
保育内容「言葉」の指導法(演習)	佐々木 悦子	24
保育内容「表現」の指導法(演習)	千葉 正・鈴木 美樹子・佐藤 恵一	25
教育原理(講義)	佐々木 義孝	26
教職論と教育制度(講義)	高橋 正紀	27
教育心理学(幼)(講義)	菊池 武剋	28
特別支援教育(幼)(演習)	小川 博敬・高橋 榮幸	29
保育課程総論(講義)	岩本 智子	30
幼児理解と教育方法(講義)	岩本 智子	31
幼児教育相談(講義)	菊池 武剋	32
教育実習 I (実習)	鈴木 美樹子・佐々木 悦子・岩本 智子	33
教育実習 II (実習)	鈴木 美樹子・佐々木 悦子・岩本 智子	34
教職・保育実践演習(演習)	鈴木 美樹子・中尾 彩子・館山 壮一	35

(2) 福祉・保健

保育原理(講義)	中尾 彩子	36
子ども家庭福祉(講義)	館山 壮一	37
社会福祉(講義)	館山 壮一	38
子ども家庭支援論(講義)	館山 壮一	39
社会的養護 I (講義)	館山 壮一	40
保育者論(講義)	中尾 彩子	41
保育の心理学(講義)	菊池 武剋	42

子ども家庭支援の心理学(講義)	菊池武剋	43
子どもの理解と援助(演習)	中尾彩子	44
子どもの保健(講義)	小岩由香	45
子どもの食と栄養(演習)	富岡佳奈絵	46
心理学概論(講義)	中尾彩子	47
保育内容総論(演習)	千葉満佐子	48
乳児保育Ⅰ(講義)	高橋トモ子・宇津野泉	49
乳児保育Ⅱ(演習)	高橋トモ子	50
子どもの健康と安全(演習)	小岩由香	51
社会的養護Ⅱ(演習)	館山壮一	52
子育て支援(演習)	中尾彩子・館山壮一	53
保育実習Ⅰ(保育所)(実習)	千葉正・中尾彩子・館山壮一	54
保育実習Ⅰ(施設)(実習)	千葉正・中尾彩子・館山壮一	55
保育実習指導Ⅰ(演習)	千葉正・中尾彩子・館山壮一	56
保育実習Ⅱ(実習)	千葉正・中尾彩子	57
保育実習指導Ⅱ(演習)	千葉正・中尾彩子	58
保育実習Ⅲ(実習)	千葉正・館山壮一	59
保育実習指導Ⅲ(演習)	千葉正・館山壮一	60
総合表現(演習)	鈴木美樹子	61
卒業研究(実習・実技)	千葉正・鈴木美樹子・佐藤恵一・ 中尾彩子・館山壮一	62

幼 児 教 育 学 科

I. 教養に関する教育科目

授業科目 (英語)	生活と環境 (Life and environment)	担当教員名	千葉 正・鈴木 美樹子・ 高橋 秀子・高橋 正紀
科目ナンバー	I A2--1	担当形態	単独・複数・ オムニバス ・クラス分け
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	2
		授業時間数・回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の建学の精神「信愛・健康・報恩」の意義と教育目的を理解し、自らの目標とする。 ・本学をとりまく地域の歴史と伝統、本学の歴史を知る。 ・幼児教育に関連する基本的事項と最近の話題を知る。 ・食と食育の基本的重要性を基に、心身ともに豊かな人間性を考える。 		
学位授与の方針との関連	本学をとりまく地域の環境的・歴史的特色を知り、学生として身につけるべき基本教養を習得しながら、将来の社会人として、また専門的職業人として必要な他者へ敬意や共感力を身につけるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	板書・配付資料・パワーポイントを活用しながら講義形式で進める。レスポンスカードにて意見・疑問点の記述を求める。担当教員ごとに1回、講義に対する意見等をまとめてレポート等の提出を課す。		
回	授 業 内 容		
1	修紅短期大学の建学の精神「信愛」「健康」「報恩」と教育目標 短期大学生をめぐる最近の話題とこれからの社会人 (千葉)		
2	オリンピックの歴史並びに東京オリンピック開催のメリットとデメリットについて (千葉)		
3	修紅短期大学における体育・運動教育の重要性 (千葉)		
4	修紅短期大学の歴史－黎明期－ (高橋秀子)		
5	修紅短期大学の歴史－昭和期－ (高橋秀子)		
6	修紅短期大学の歴史－平成期－ (高橋秀子)		
7	岩手の先人たち (高橋正紀)		
8	岩手の産業 (高橋正紀)		
9	岩手の伝統文化 (高橋正紀)		
10	東日本大震災からの教訓①学生たちが企画作成した東日本大震災から10年の特別番組から (鈴木)		
11	東日本大震災からの教訓②「子どもたちに伝えたい。津波の体験、復興のことを」 (鈴木・特別講師)		
12	東日本大震災からの教訓③「子どもを守り、命を守る」 (鈴木)		
13	地域の歴史と伝統に生きる (千葉・特別講師)		
14	地域の文化と産業の発展のために (千葉・特別講師)		
15	地域創生に向けて (千葉・特別講師)		
アクティブラーニング の取り入れ状況	毎時間、レスポンスカード等を用いて意見・疑問点等を求める。 次回の講義時間初頭に意見・疑問等について解説や質疑応答を行う。		
事前学修	次回の講義内容をみて、重要語句について調べておくこと (90分)		
事後学修	配付資料やノートにより復習して、知識を確かなものとする (90分)		
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	レスポンスカードの意見・疑問への解説と質疑応答を行う。		
成績評価の方法と基準	レポート・レスポンスカードの内容 (90%)、授業態度 (10%) を合わせて総合評価する。		
教科書	特になし		
参考書等	一関市史編纂委員会 「一関市史 第3巻」 一関市発行		
オフィスアワー	担当教員の指定する曜日・時間		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目 (英語)	日本国憲法 (The constitution of Japan)		担当教員名	高橋 秀憲	
科目ナンバー	I A2①-2		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	2	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	① 新聞・テレビ・ニュース等で報道される憲法問題の論点を理解し、説明できる。 ② 日本国憲法の基本的な考え方とか仕組みを理解できる。 ③ 主権者国民・有権者の一人として、こうした問題に対し意思表示を求められるときには、あわてふためくことなく自分なりの判断を下せるようになる。				
学位授与の方針との関連	社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけ、専門職業人としての意識と責任感を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	板書とテキスト・配付プリントを活用し、対話形式で進めます。				
回	授 業 内 容				
1	はじめに…「六法」と法令秩序				
2	憲法とは何か?…「最高法規」、近代憲法の原則と現代憲法の原則				
3	「日本」憲法…大日本帝国憲法と日本国憲法、改憲問題				
4	「国民の要件」…国民の3つの地位と権能、外国人の人権と国籍条項				
5	選挙…参政権、近代選挙法の原則と選挙制度、定数問題				
6	象徴天皇制…「象徴」、天皇の地位と権能、摂政と臨時代行				
7	地方自治…「地方自治の本旨」、首長制と住民の直接請求権				
8	平和国家…「戦争の放棄」の歴史、9条と自衛隊、安全保障法制と国際貢献				
9	「個人の尊厳」…「基本権」の考え方、裁判規範性からする基本権分類				
10	新しい人権…プライバシーの権利・知る権利・環境権と「幸福追求権」				
11	国会…権力分立と「国権の最高機関」、両院制と衆議院の優越、国政調査権				
12	内閣…内閣総理大臣と内閣、「法律による行政の原理」				
13	裁判所…「司法の独立」、違憲立法審査権、裁判所の審級と裁判員制度				
14	財政…租税法律主義と予算制度、公の財産の支出又は利用の制限				
試験	試験				
15	試験の解説および総括 (日本国憲法の課題を考える)				
アクティブラーニングの取り入れ状況	質疑応答など対話形式を中心に進める他に、テキストの音読協力・板書問題への参加を求めます。レスポンスカードも配付します。(毎回)				
事前学修	日々、新聞・テレビ・ニュース等で報道される憲法の問題に関心を怠らず、テキストの該当部分と照合し、授業に臨んで欲しいと思います。なお、テキストは、シラバスの進行にこだわらず、あらかじめ通読し、疑問点・不明点などをチェックしておくとう理解が深まると思います。(90分)				
事後学修	メモ・ノートの整理と関連資料の自発的収集・チェック、次回講義時の質問事項のピックアップ等、忘れないうちに復習しておいて下さい。(90分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	課題レポートについては、添削の上、◎○△×の4段階評価を付して返却します。どこが問題なのか自身で確認して、何度でもチャレンジしてみてください。				
成績評価の方法と基準	定期試験70%、課題レポート20%、授業へのとりくみ10%で評価します。				
教科書	伊藤正己「憲法入門〔第4版補訂版〕」有斐閣双書				
参考書等	「六法」他、資料プリントを配付し、その都度指示したいと思います。				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	特になし				

授業科目 (英語)	保健と体育 (Health and physical education)		担当教員名	千葉 正	
科目ナンバー	II A1①②-3		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・通年	単位数	2	授業時間数・回数	60時間・2時間/週・30回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	<p>①各種スポーツの技能等を習得することでスポーツに親しみ、健康づくりの意義を理解し余暇善用の技術、生涯スポーツのきっかけとなる体験をする。</p> <p>②ライフスタイルに応じた運動や生活習慣と健康やスポーツ文化、更にはスポーツ外傷等に対する応急手当や処置法、救急法 (AEDや心肺蘇生法) 等に関する基礎的な知識や技術を習得する。</p>				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	実技及び板書とDVDを活用しながら講義形式で進める。場合によっては配付印刷物を用いて実践方法を説明する。実技を実施する。				
回	授 業 内 容				
1	オリエンテーション並びに簡易体力測定				
2	ゴルフの歴史、ルール解説、用具の説明				
3	ゴルフの基本練習 ①スイング (インパクトと正しい構え方) 実践				
4	" ②左手グリップ (スクウェアグリップ) 右手クリップ (インターロッキング)				
5	" ③正しい重心の位置とボールの位置、前傾角度の3つのポイント				
6	" ④ボールを真っ直ぐに飛ばすための正しい打ち方				
7	" ⑤打つ時に前傾角度を維持、スイングを安定させる腕の三角型、顔の向きを保つ				
8	" ⑥ボールを曲げないフェースの向き、シャフトの向き・位置				
9	" ⑦ミドルアイアン、ロングアイアン				
10	" ⑧アプローチ、パッティング、簡易ゴルフ実技テスト				
11	バレーボールの基礎練習 ①ボールを使用したトレーニング、サーブ (アンダー、変化球、フローター)				
12	" ②パス (オーバーハンドパス、アンダーハンドパス)、サーブの基礎				
13	" ③トス (オープン、バック、2段)、サーブ応用				
14	" ④スパイク (オープン、セミ、クイック等)、ブロック、簡易ゲーム I				
15	" ⑤レシーブ (サーブ、スパイク)、フォーメーションプレー、簡易ゲーム II				
16	バレーボール応用編 ①ルールと審判法、正規ゲーム I (リーグ戦)				
17	" ②正規ゲーム II (リーグ戦)				
18	" ③正規ゲーム III (リーグ戦) 簡易バレーボール実技テスト				
19	バスケットボールの基本練習 ①パス→ショット、ドリブル→ショット、ジャンプショット				
20	" ②パス→ジャンプショット、三角パス				
21	" ③簡易ゲーム				
22	バスケットボールの応用編 ①正規ゲーム I (リーグ戦)				
23	" ②正規ゲーム II (リーグ戦)				
24	" ③正規ゲーム IV (リーグ戦)、簡易バスケットボール実技テスト				
25	運動について ①体育とは、スポーツとは				
	" ②体力とは、運動の必要性、動機づけとパフォーマンス				
26	" ③運動の実践 (トレーニングについて)、運動と疲労、スポーツ障害				
27	救急法の実践 ①AED: 自動体外式除細動器、心肺蘇生法の実践				
28	" ②止血・骨折・熱中症の応急手当、スポーツ外傷に対する現場での処置				
29	現代社会と健康 ①食生活・喫煙・飲酒について				
30	" ②生活習慣病について				

(次へ続く)

アクティブラーニングの取り入れ状況	実習と実技 (25 回)
事前学修	戸内外の種目を問わず運動やスポーツに取り組み汗を流す習慣を心掛ける (20 分)
事後学修	講義授業後期限内にレポートを提出すること (25 分)
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	レポートにコメントを記入し返却する。
成績評価の方法と基準	授業への取り組み (60%)、レポートや簡易実技のテスト (40%) 授業時の服装はスポーツウェア、室内靴は指定運動靴、安全上ピアス、ネックレス等の装飾品を外し、髪の毛の長さが肩に掛かる際には、必ず束ねてから参加する。
教科書	特に指定しない
参考書等	大学生の健康・スポーツ科学研究会編「大学生の健康・スポーツ科学 第5版」 道和書院
オフィスアワー	体育館2階 301 研究室 月曜日 5限
科目に関連する実務経験	特になし

授業科目 (英語)	幼児体育 (Infant physical education)		担当教員名	富田 夕子	
科目ナンバー	II A2③-4		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	1	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	<p>1. 幼児期における望ましい体力・運動能力の獲得を実現するために、軽快なビート感が特徴のエアロビックを中心に、知識や技術、指導方法を学習し、実践力を身につける。</p> <p>2. 保育者として自ら楽しく運動に取り組み、自身の体力の向上をめざす。</p> <p>3. 幼児の発育発達の特徴と幼児の動きづくりと運動遊びの重要性を理解する。幼児体育の指導者に必要な知識を深め、実践的展開を支える基礎技能の習得を図る。</p> <p>4. なぜ、子どもにとって遊びは重要なのか。幼児期における遊びの教育としての有効性とその必要性を理解する。</p>				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	DVDを活用しながら実技形式で行う。				
回	授 業 内 容				
1	オリエンテーション、交流ゲームとレクリエーション				
2	ラジオ体操の実践① 自身の身体活動の積極性を高める				
3	ラジオ体操の実践② 基礎的な動作を確認し合う				
4	ラジオ体操の実践③ 基礎的な動作を評価する				
5	幼児向け教室の実際 幼児の心身の発育発達、指導上の安全管理について理解する				
6	幼児親子向け教室の実際 保育者のマナー、保護者とのコミュニケーションについて理解する				
7	乳児親子向け教室の実際 保育者のマナー、保護者とのコミュニケーションについて理解する				
8	体操教室の実際① マット運動の実践と補助の方法				
9	体操教室の実際② 跳び箱の実践と補助の方法				
10	体操教室の実際③ 鉄棒の実践と補助の方法				
11	課題動作の指導方法① エアロビックを取り入れた基本動作の課題ルーティンを理解する				
12	課題動作の指導方法② 実際にグループで動き方の確認を行う				
13	課題動作の指導方法③ 実際にグループで指導実習を行い確認し合う				
14	課題動作の指導方法④ 動き方や基礎的な指導技術を評価する				
15	評価とまとめ				
試験	試験、解説及び総括				
アクティブラーニングの取り入れ状況	実技 (15回)				
事前学修	戸内外の種目を問わず運動やスポーツに取り組み汗を流す習慣を心掛ける (20分)				
事後学修	授業後期限内にレポートを提出すること (25分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	レポートにコメントを記入し返却する				
成績評価の方法と基準	授業の取り組み (60%)、レポートおよび試験 (40%) 授業時の服装はスポーツウェア、室内靴は指定運動靴、安全上ピアス、ネックレス等の装飾品を外し、髪の毛の長さが肩に掛かる際には、必ず束ねてから参加する				
教科書	岩崎洋子・吉田伊津美・朴淳香・鈴木康弘 (2008) 「保育と幼児期の運動あそび」 萌文書林				
参考書等	特に指定しない				
オフィスアワー	授業終了時体育館で				
科目に関連する実務経験	ジュニア体育研究所に勤務し幼児体操の指導にあたる				

授業科目(英語)	基礎音楽 (Basic music education)		担当教員名	鈴木 美樹子 ・ 加藤 裕美	
科目ナンバー	II A1--5		担当形態	単独・ 複数 ・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・通年	単位数	2	授業時間数・回数	60時間・2時間/週・30回
授業形態	講義・ 演習 ・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修 ・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	<p>① リズムの基本や楽譜の読み方をピアノだけでなくタッチベル・カホン等のアンサンブルを通して楽しく学ぶことができる。</p> <p>② 「わらうべうた」を通して乳幼児の声域を理解し、[ラ]からはじまる音感教育を通して正しい音程で歌うことができる。</p> <p>③ 音楽の基礎学習の理解を深める。</p> <p>④ 子供の自然な声、保育者の自然な声、ことばと声域を理解するとともに、乳幼児の音表現を理解する。</p> <p>⑤ 弾き歌いができるようになる。</p>				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	学習内容を説明した後、演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1	音楽の楽しさを学ぶ(タッチベル、カホン、トーンチャイム)、楽譜の読み方(ト音記号、ヘ音記号、大譜表)				
2	タッチベルでメロディ ハーモニー、バスを学ぶ、楽典の基礎 ドリル①				
3	カホンでリズム打ちを学ぶ リズムと拍子について、楽典の基礎 ドリル②				
4	歌とタッチベルアンサンブル①かえるの歌(コードC) 楽典の基礎 ドリル③				
5	歌とタッチベルアンサンブル②ちょうちょ(コードC, G7) 楽典の基礎 ドリル④				
6	歌とタッチベルアンサンブル③キラキラ星(コードC, F, G7)、楽典の基礎 ドリル⑤				
7	わらべうたによる[ラ]からの音域教育Ⅰ 歌とキーボードアンサンブル かえるの歌、楽典の基礎 ドリル⑥				
8	わらべうたによる[ラ]からの音域教育Ⅱ 歌とキーボードアンサンブル ちょうちょ、楽典の基礎 ドリル⑦				
9	わらべうたによる[ラ]からの音域教育Ⅲ 歌とキーボードアンサンブル わらべ歌の合唱、キラキラ星、楽典の基礎 ドリル⑧				
10	カホンによるリズムアンサンブル、コードネーム(ハ長調 C-G7-Am-Em-F-C-F-G7)、楽典の基礎 ドリル⑨				
11	コードネーム(ハ長調 C-G7-Am-Em-F-C-F-G7 にバスを付ける)、子どものうた、輪唱、楽典の基礎 ドリル⑩				
12	コードネーム(ニ長調 D, G, A7)、こどものうた、手話をつけてうたう、楽典の基礎 ドリル⑪				
13	コードネーム(ニ長調 D, G, A7)の曲を弾き歌いする、こどものうた、手話をつけてうたう、楽典の基礎 ドリル⑫				
14	カホン、打楽器の基本的な使い方を学ぶ(鈴木・大野)				
15	コードネーム ハ長調とニ長調の曲に歌と手話、カホンをつける				
試験	キーボード課題とこどものうた、わらべうたの発表 解説及び総括				

(次へ続く)

回	授 業 内 容
16	生活の歌にコードネームをつける・歌う① ハ長調の曲
17	生活の歌にコードネームをつける・歌う② 二長調の曲
18	生活の歌にコードネームをつける・歌う③ ヘ長調の曲
19	行事の歌にコードネームをつける・歌う① ハ長調の曲
20	行事の歌にコードネームをつける・歌う② 二長調の曲
21	こどもの歌にコードネームをつける・歌う① ハ長調の曲
22	こどもの歌にコードネームをつける・歌う② 二長調の曲
23	こどもの歌にコードネームをつける・歌う③ ヘ長調の曲
24	手遊びのレパートリー① 動物
25	手遊びのレパートリー② じゃんけん
26	手遊びのレパートリー③ 食べ物
27	こどもの歌の簡単なアンサンブル① 手拍子、リズム楽器
28	こどもの歌の簡単なアンサンブル② 拍子と指揮法
29	生活・行事の歌のまとめ
30	こどもの歌のまとめ
試験	実技試験 解説および総括
アクティブラーニングの取り入れ状況	歌や拍子に対するイメージをディスカッションする。(15回) 楽器を演奏する、歌を歌うなどの実技を行う。(30回)
事前学修	①課題曲の歌は歌詞を覚え、正しい音程で歌えるようにする。②歌のリズム奏をしてリズムを覚える。③ピアノ曲は和音を弾けること (20分)
事後学修	①歌、リズム、コードを別々に練習してから、コードネーム伴奏で歌えるように練習しておく。②毎時間手遊びをする。③楽典の基礎ドリルを復習する (25分)
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	課題に対してコメントをする。
成績評価の方法と基準	①歌試験 20%、②伴奏試験 20%、③弾き歌い試験 40%、通常授業における課題曲の状況評価 20%によって評価する。
教科書	植田光子(2006)「手遊び百科-「いつ」「どのように」使えるかがわかる!!」ひかりのくに 全国大学音楽教育学会編著(2013)「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌・唱歌童謡 140年の歩み」音楽之友社 植田光子・高後堂愛子・木許隆 編著(2017)「楽しい音楽表現」圭文社
参考書等	適宜資料を配る
オフィスアワー	授業終了時教室で
科目に関連する実務経験	鈴木：音楽院の講師および小学校音楽講師

授業科目(英語)	幼児音楽 (Music education for infants)	担当教員名	鈴木 美樹子
科目ナンバー	II A2--6	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	1
		授業時間数/回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	① 正しい音程で歌うことができる。 ② 正しいリズムを奏でることができる。 ③ 曲にコードネーム伴奏をつけることができる。 ④ 弾き歌いのレパートリーを増やすことができる。		
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	学習内容を説明した後、演習を行う。		
回	授 業 内 容		
1	弾き歌い①おはようの歌		
2	弾き歌い②お弁当の歌		
3	弾き歌い③おかえりの歌		
4	コードネーム①ハ長調のスリーコードとハ長調の曲の弾き歌い		
5	コードネーム②ニ長調のスリーコードとニ長調の曲の弾き歌い		
6	コードネーム③ヘ長調のスリーコードとヘ長調の曲の弾き歌い		
7	コードネーム④ト長調のスリーコードとト長調の曲の弾き歌い		
8	年齢別の手遊び・歌の実践		
9	生活の歌・遊びの実践		
10	季節の歌・遊びの実践		
11	行事の歌・遊びの実践		
12	動物、食べ物、ジャンケンなどのいろいろな手遊び		
13	子どもの歌の簡単なアンサンブル①手拍子・リズム楽器・指揮法		
14	子どもの歌の簡単なアンサンブル②合唱・指揮法		
15	実技のまとめ		
試験	試験 解説及び総括		
アクティブラーニングの取り入れ状況	歌に対するイメージを考え、ディスカッションする。(15回) 楽器を演奏し、歌を歌う。(15回)		
事前学修	課題曲を練習する。(20分)		
事後学修	授業中に見つけた課題を克服する。(25分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	授業中にレポートに対してコメントを行う。		
成績評価の方法と基準	①ピアノ試験 20%②伴奏試験 20%、③弾き歌い試験 40%、通常授業における課題曲の状況評価 20%によって評価する。		
教科書	植田光子(2006)「手遊び百科-「いつ」「どのように」使えるかがわかる!!」ひかりのくに 全国大学音楽教育学会編著(2013)「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌・唱歌童謡 140年の歩み」音楽之友社 植田光子・高後堂愛子・木許隆 編著(2017)「楽しい音楽表現」圭文社		
参考書等	適宜資料を配る		
オフィスアワー	授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	小学校音楽講師		

授業科目(英語)	基礎造形 (Basic expression)			担当教員名	佐藤 恵一
科目ナンバー	II A2③-7			担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	1	授業時間数/回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習			卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動に必要な材料や用具について理解する。感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材にふれて楽しむ。 様々な形や色に気付いたり、感じたりして楽しむ。 				
学位授与の方針との関連	乳幼児を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	制作課題について板書や配付資料で説明した後、実技を行う。				
回	授 業 内 容				
1	オリエンテーションと乳幼児の作品鑑賞				
2	ビー玉アート(ビー玉・色画用紙・色ペン)				
3	フロッタージュ作品で、園の生活を描く(色鉛筆・色ペン)				
4	静物を描く(色鉛筆、クーピー)				
5	綿棒アート(綿棒・色画用紙)				
6	スクラッチアート(クレパス・画用紙・耐水性インク<黒>・竹串)				
7	サンドアート(白ボール紙・色砂・木工ボンド・竹串)				
8	パステルアート(パステル、色画用紙)				
9	額縁をつくる(ダンボール・包装紙)				
10	デザインあ①(パネル作り。構想をまとめる)				
11	デザインあ②(構想をもとにパネルに下書きをする)				
12	デザインあ③(彩色を行う)				
13	デザインあ④(彩色を行い完成させる)				
14	壁面制作①(テーマについて話しあい、構想する)				
15	壁面制作②(下書き：画面構成)				
	定期試験は実施しない				
アクティブラーニングの取り入れ状況	制作の構想段階でグループワークを行う。(10回)				
事前学修	制作課題についてアイデアを構想する。(20分)				
事後学修	課題作品と制作レポートについて期限内に提出する。(25分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	完成作品を教室や廊下に掲示し、相互鑑賞できるようにする。制作レポートにはコメントして返却する。				
成績評価の方法と基準	課題作品の提出70%、レポート20%、授業への貢献度10%				
教科書	特に指定しない。授業時に適宜資料を配付する。				
参考書等	豊泉尚美・松本のり子「自然と季節を楽しむ造形遊び」黎明書房 槇英子「保育をひらく造形表現」萌文書林				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	公立学校美術教諭				

授業科目 (英語)	英語 I (English I)		担当教員名	藤倉 俊彦	
科目ナンバー	I A2①②-8		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・通年	単位数	2	授業時間数・回数	60時間・2時間/週・30回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修・保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語を読む、聞く、話す、書く活動を通して、基本的な運用力を高め、幼児の英語指導の一助とすることができる。 外国語学習を通して、国際的な視野を広げ、併せて日本語の理解を深め、コミュニケーション能力を高める。 				
学位授与の方針との関連	・社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	板書、DVD、テキスト、配付印刷物を用いて、演習を中心とした授業を行う。				
回	授 業 内 容				
1	Orientation for new students Self-Introduction. Introduce your partner to others.				
2	Unit 0 Welcome to English Firsthand 1. You can improve your English by using this textbook.				
3	Unit 1 It's nice to meet you. Where are you from? How do you know Cris?				
4	Unit 1 What does she do? Images of my life. Let me introduce myself.				
5	Unit 2 Who are they talking about? Use the tasks in this book. What do they look like?				
6	Unit 2 Do you want to see some picture? Spy catcher!				
7	Unit 2 Tell me about your family. The world's biggest family.				
8	Unit 3 When do you start? Daily activities What do you do all day?				
9	Unit 3 What are you doing Friday night? How well do you know me?				
10	Unit 3 How well do you know me? How often do you ...? A balanced life				
11	Unit 4 Omitted Unit 5 How do I get there? Directions Where is it? Excuse me.				
12	Unit 5 It's across from the park.				
13	Unit 5 Taxi! My farewell party!				
14	Unit 6 What happened? Past activities Tell me about yourself. How was your weekend?				
15	Unit 6 Pairwork Where did you go? Talk about a time ... Unlucky day!				
試験	前期の総まとめ				
16	Review Unit 1 Let's talk!				
17	Unit 7 I'd love that job. Be active in class. What do you want to do?				
18	Unit 7 Yes, I think I'd like that. Who gets the job?				
19	Unit 7 Do I work outdoors? Boxing is only my hobby.				
20	Unit 8 What's playing? What do you feel like doing?				
21	Unit 8 Let's do something tonight. A perfect day out				
22	Unit 8 Want to go to a concert? Welcome to E-cube.				
23	Unit 9 What are you going to do? What are your vacation plans?				
24	Unit 9 What are you going to do there? Palm reading				
25	Unit 9 Plans and predictions Our gap year				
26	Unit 10 How much is this? What are you shopping for? May I help you?				
27	Unit 10 Flea market Language check				
28	Unit 10 Shop talk Buy Nothing Day				
29	Unit 10 It helps you remember.				
30	Listen & Speak Test				
試験	試験および解説				

(次へ続く)

アクティブラーニングの取り入れ状況	毎回問答形式の演習(Listen & Speak)を行った後で、ペアワークを行う。(30回) グループワーク、ディスカッション、対戦形式の英問・英答(Baseball Game)(4回)
事前学修	(20分) 授業前に次回の範囲を確認し、単語・重要語句を辞書で調べておくこと。
事後学修	(25分) 学習したことをノートにまとめる。書き込み式のテキストの点検を受ける。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	単元ごとの確認テストを行った後、解答の解説を行う。 レスポンスカード、レポート、提出物にコメントを記入し返却する。
成績評価の方法と基準	前・後期定期試験40%、Interview Test(英問・英答試験2回)30%、 単元テスト・Essay(作文)20%、授業内における発言・ディスカッション10%
教科書	Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier 共著、Michael Rost 編集 English FIRSHAND (Pearson Longman 社)
参考書等	英語辞書に関しては特に指定しません。高校時代のもので可。電子辞書は可。 スマートフォンは、不可。
オフィスアワー	授業終了時教室で
科目に関連する実務経験	高等学校英語教諭

授業科目（英語）	英語Ⅱ (English II)	担当教員名	小野寺 美紀子
科目ナンバー	I A2--9	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・後期	単位数	1
		授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	外国語学習を通して豊かな教養を身につけ、社会のさまざまな場面や保育現場で必要とされるコミュニケーション能力を高める。		
学位授与の方針との関連	社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	配付印刷物、板書、CDを活用しながら演習を行う。		
回	授 業 内 容		
1	Unit 1 First Step to Childcare English		
2	Unit 2 Welcome to Minato Nursery School!		
3	Unit 3 Time and Numbers		
4	Unit 4 Directions		
5	Unit 5 Davy Meets His Classmate Takashi		
6	Unit 6 Dropping Davy Off and Picking Him Up		
7	Unit 7 Jobs at Nursery School		
8	Unit 8 Lunchtime		
9	Unit 9 Toilet Dialog		
10	Unit 10 Fighting		
11	Unit 11 Injuries and Illnesses		
12	Unit 12 Telephone Calls		
13	Unit 13 Field Trip		
14	Unit 14 Graduation Day		
試験	試験		
15	試験の解説および総括		
アクティブラーニングの取り入れ状況	演習（14回）		
事前学修	授業前に次回のプリントを読み、重要語句について調べておくこと。（20分）		
事後学修	毎授業後期限内にレポートを提出すること。（25分）		
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法	試験終了後、試験の解説および総括を行います。 レポートにコメントし返却します。		
成績評価の方法と基準	試験 50%、授業内の発表と課題 50%		
教科書	講義プリントを配付する。		
参考書等	赤松直子・久富陽子著 『保育の英会話』 萌文書林 英和辞典（指定はなし）		
オフィスアワー	授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	高等学校英語教諭		

授業科目 (英語)	情報機器演習 (Operation of the information system)		担当教員名	井上 翔	
科目ナンバー	II A2①-10		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	2	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	<p>コンピュータの基本的な知識や技術を、演習を通して身につけ、社会活動や教育活動に役立てることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネット利用上のモラルや危険性を理解し、正しい情報モラルがわかる。 2. 図書館利用、文献検索、データベース活用などを学び、課題解決のための情報を検索することができる。 3. 情報を分析評価し整理することができる。 4. 様々な文書、表計算、グラフ、スライド等作成の演習を通して、レポート、論文、プレゼンテーションなどの情報発信ができる。 				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用する力を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	課題を明示し、重要な事項について説明し、演習を行う。適宜、課題の提出と発表を求める。				
回	授 業 内 容				
1	Web ブラウザ	ガイダンス、自己紹介、Office365 のアカウントの作成			
2		インターネットの活用と問題点、情報モラルについて			
3	Word	インターネット等による情報収集、図書館利用法、文献検索法、データベース活用			
4		基本操作、文書作成演習① 基本			
5		文書作成演習② 応用			
6		旅行計画書の作成① 基本			
7	Excel	旅行計画書の作成② 応用			
8		基本操作、表の作成			
9		関数を使った計算			
10		グラフの作成① 基本			
11	PowerPoint	グラフの作成② 応用			
12		基本操作、自己紹介スライドの作成			
13		旅行計画スライドの作成① 基本			
14		旅行計画スライドの作成② 応用			
15		発表会① テーマの設定・問題点の抽出			
		発表会② 考察 定期試験は実施しない			
アクティブラーニングの取り入れ状況	演習およびプレゼンテーション (15回)				
事前学修	事前に教科書を読み、高校などで行った内容を復習しておくこと。積極的にコンピュータや使用する office ソフトを使用してみること。(90分)				
事後学修	授業で学んだ内容を確認して、使えるようにしておくこと。(90分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	提出課題に対してのコメントをフィードバックする。				
成績評価の方法と基準	演習への取り組み(20%)、提出課題(70%)、および発表(10%)を総合して評価する。				
教科書	若山芳三郎(著)「学生のための情報リテラシー Office 2013/Windows 8.1 版」東京電機大学出版局 (2014/11/20)				
参考書等	特に指定なし。				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	特になし				

Ⅱ. 専門に関する教育科目

(1) 幼児教育

授業科目(英語)	子どもと健康 (Childhood care and wellness)	担当教員名	千葉 正
科目ナンバー	II B1①②-1	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	1
		授業回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	(1) 幼児期の健康課題について理解する。 (2) 幼児期の心身の発達と基本的な生活習慣の形成について理解する。 (3) 幼児の安全な生活のための教育と安全管理について理解する。 (4) 幼児の運動機能の発達と身体活動について理解する。		
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識が身についている。		
授 業 計 画			
授業の方法	重要事項について、配付資料及び板書により解説する。グループを作り、テーマを設定し調査を行い、プレゼンテーションをさせる。		
回	授 業 内 容		
1	健康の定義、健康に関する現代の課題、幼児の健康の定義		
2	幼児を取り巻く生活環境と健康に関する課題		
3	幼児期の身体的発達の特徴、生理的機能の発達		
4	幼児期の身体的発達の特徴と生活との関連		
5	幼児期の生活習慣の基礎的要素		
6	幼児の生活習慣の獲得及び生活リズムの形成		
7	幼児の安全教育(生活安全、交通安全の習慣、避難訓練、災害時などへの緊急対応)		
8	リスクとハザードの違いの理解、安全への意識と態度を育むために必要なこと		
9	幼児の健康管理と病気の予防方法		
10	幼児期の怪我の特徴と予防方法		
11	幼児期の運動発達の特徴、運動コントロール能力の発達の理解		
12	幼児期の「多様な動き」の獲得とその意義		
13	日常生活における運動と環境との関連		
14	遊びとしての運動		
試験	試験		
15	試験の解説及び幼児の身体活動経験を豊かにするための工夫		
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワークをした後グループでのプレゼンテーションを行う。(5回)		
事前学修	シラバスを確認しそれに伴う要点を習得しておくこと。(20分)		
事後学修	毎授業後期間内に、与えられた課題・レポートを提出する。(25分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	講義終了後に提出されたレポートに対し、コメントを記載し返却する。		
成績評価の方法と基準	定期試験(70%)、授業の取り組み・討論への貢献度(30%)		
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領(平成29年3月告示) 内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示)		
参考書等	特に指定しない		
オフィスアワー	体育館2階 301研究室 月曜日 5限		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目 (英語)	子どもと人間関係 (Children and human relations)	担当教員名	中尾 彩子
科目ナンバー	II B1①②-2	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	1
		授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	(1) こどもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 (2) 幼児期の人間関係の発達について、学習理論の視点から理解する。		
学位授与の 方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につけるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	スライドや資料映像を活用しながら理論を説明した後、ロールプレイ等を用いて演習を行う。		
回	授 業 内 容		
1	なぜ、人と関わることが大切なのかー「自分を知る」ことから始める		
2	現代社会と幼児の人間関係ー家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるもの		
3	身近な大人との関係を基盤として育つ子ども		
4	自己主張と自己抑制の発達		
5	幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ちー個と集団の育ち		
6	幼児期の遊びや生活の中で見られる他児との関係性の育ち		
7	「ひとりでできる」と自己肯定感		
8	基本的な生活習慣と社会化		
9	協同性の育ち①二項関係から三項関係へ		
10	協同性の育ち②目的や目標を共有しやり遂げる力の育ち		
11	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ちー他律的な道徳観から自律的な道徳観へ		
12	保育者同士のかかわりー共通理解を図るためのコミュニケーション		
13	保護者同士のかかわりーなぜ、保護者と良好な関係を築くことが大切か		
14	人間関係の広がりー家庭から園、そして地域へと広がりをもたせる関係		
15	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係ー乳児期から学童期以降の育ちのつながりを理解する 定期試験は実施しない		
アクティブラーニング の取り入れ状況	グループワーク及びロールプレイを行う。(13回)		
事前学修	次回のテーマを確認し、それに沿った日常にあるエピソードを探すこと。(20分)		
事後学修	毎授業後、取り扱ったテーマに係る箇所を幼稚園教育要領及び保育所保育指針からピックアップしノートにまとめること。(25分)		
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	レポートにコメントを記入し返却します。		
成績評価の方法と基準	レポート 50%, 毎授業後のレスポンスカードの内容 40%, 授業への貢献度 10%		
教科書	田宮 緑「体験する・調べる・考える 領域 人間関係」萌文書林 2013		
参考書等	文部科学省「幼稚園教育要領」、内閣府 文部科学省 厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、厚生労働省「保育所保育指針」		
オフィスアワー	5階 508 研究室 金曜日 4 限		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目 (英語)	子どもと環境 (Children and environment)	担当教員名	千葉 悟
科目ナンバー	II B1①②-3	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	1
		授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	① 乳幼児を取り巻く環境の諸側面と幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。 ② 乳幼児と環境とのかかわり方について専門的概念を用いて説明できる。 ③ 乳幼児を取り巻く環境の現代的課題について説明できる。 ④ 乳幼児期の認知的発達の特徴と道筋を説明できる。 ⑤ 乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わりの事象、標識・文字の環境、情報・施設に対する興味・関心、関わり方、理解の発達を説明できる。		
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	パワーポイントと配付印刷物を用いて学習内容を説明した後、演習を行う。		
回	授 業 内 容		
1	環境の概念、乳幼児を取り巻く現代社会の環境とその課題		
2	保育活動における環境構成		
3	乳幼児の環境にかかわる力		
4	自然環境 (1) 乳幼児の動物概念の認知的発達、動物とのかかわりに関する活動		
5	自然環境 (2) 乳幼児の植物概念の認知的発達、植物とのかかわりに関する活動		
6	自然環境 (3) 身近な環境の観察		
7	ネイチャーゲームの理論と実践		
8	飼育と栽培		
9	ものの性質 (1) 紙、色、光に関する制作活動		
10	ものの性質 (2) 磁石、水に関する制作活動		
11	数量・図形 (1) 幼児の数概念・量概念の認知的発達		
12	数量・図形 (2) 数に関する制作活動		
13	数量・図形 (3) 量に関する制作活動		
14	標識・文字・情報・施設		
15	海外の幼稚園における保育と自然体験への取り組み 定期試験は実施しない		
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループあるいは個人で制作を行う。フィールドワークを行う。(6回)		
事前学修	授業前に次回の範囲を読んで、重要語句について調べておくこと。(20分)		
事後学修	授業後期間内にレポートを作成、提出すること。(25分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	レポートにコメントを記入し、返却する。		
成績評価の方法と基準	授業における活動・制作(60%)、課題への取り組み(20%)、授業への貢献度(20%)		
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領(平成29年3月告示)		
参考書等	内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示)		
オフィスアワー	授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目 (英語)	子どもと言葉 (Children and words)	担当教員名	佐々木 悦子
科目ナンバー	II B1①②-4	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	1
		授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	① 人間にとっての話し言葉や書き言葉などの意義や機能を理解し説明できる。 ② 乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。 ③ 言葉への感覚を豊かにする言葉遊びなどの実践や基礎的な知識を身につける。 ④ 言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。 ⑤ 言葉を豊かにする実践を、乳幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 ⑥ 乳幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、基礎的な知識を身につける。		
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	学習内容を説明したあと、演習を行う。		
回	授 業 内 容		
1	人間にとって「言葉」とは何か？－人間にとっての言葉の意義と機能		
2	言葉をどのように獲得するのか？－子どもの言葉の発達過程：誕生から、書き言葉（文字）習得まで		
3	「言葉に対する感覚」とは何か？①－言葉の美しさ、楽しさを知ろう		
4	「言葉に対する感覚」とは何か？②－言葉の美しさ、楽しさを自分で見つけよう		
5	「言葉に対する感覚」とは何か？③－言葉の美しさ、楽しさを伝えよう		
6	言葉に対する感覚を豊かにする実践とは①－響きやリズムのある言葉あそびの指導計画		
7	言葉に対する感覚を豊かにする実践とは②－読み聞かせや朗読を取り入れた指導計画		
8	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際①－子どもと楽しむ「言葉遊び」の模擬保育Aグループ		
9	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際②－子どもと楽しむ「言葉遊び」の模擬保育Bグループ		
10	「児童文化財」とは何か？－子どもにとっての「児童文化財」の意義、種類、歴史など		
11	言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」の実際①－「児童文化財」の世界の例		
12	言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」の実際②－「児童文化財」の日本の例		
13	言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」を用いた実践①－物語・紙芝居などを読もう		
14	言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」を用いた実践②－実践を振り返ろう		
試験	試験		
15	試験の解説、言葉に対する興味・関心を育てる－豊かな言葉や表現を身に付けよう		
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワーク、討論、発表、模擬保育を行う。（5回）		
事前学修	授業前に次回の範囲を読んで、重要語句についてしらべておくこと。（20分）		
事後学修	毎授業後期限内にレポートを提出すること。（25分）		
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法	授業中にいくつかのレポートを読み上げ、その内容を受講生と共有する。 質問に対しては授業中に答える。		
成績評価の方法と基準	定期試験（50％）、授業の取り組み・演習への貢献度（50％）		
教科書	駒井美智子編（2018改訂）『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』（株みらい文部科学省『幼稚園教育要領』 内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』		
参考書等	適宜紹介する		
オフィスアワー	授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	公立幼稚園教諭		

授業科目 (英語)	子どもと表現 (Childhood education and composite arts)	担当教員名	鈴木 美樹子
科目ナンバー	II B1①②-5	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	1
		授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	(1) 1)幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の基本をふまえ、領域「表現」のねらいと内容を理解する。 2)乳幼児が経験し身に付けていく内容を、発達の過程を通して理解する。 (2) 1)音楽で表現する喜びと楽しさを実感し、他者との共感により豊かな表現力を身に付ける。 2)歌う・聴く・弾く・動く・作るなどを通して、乳幼児期の表現活動を豊かに展開できる。 3)他者と協働して、総合的な表現活動によるまとめを発表する。		
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につけるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	学習内容を説明した後、演習を行う。		
回	授 業 内 容		
1	領域「表現」のねらい及び内容を理解する。乳幼児教育において育みたい資質、能力を乳幼児の生活する姿から捉える。		
2	表現活動において「歌う」活動 生活や遊びの中にある声、音のおもしろさに気付く。応答的な表現活動を即興的に行う。		
3	表現活動において「聴く」活動 身近にある音、雨、風など自然の中の音、生活の中の音、声や楽器の音などを聴き、感覚、感性をみがき、表現活動に結び付けて展開できるようになる。		
4	表現活動において「弾く」活動 簡易な楽器や身近なもので音にし、乳幼児の発達に即したリズム遊びの展開例を考える。		
5	表現活動において「動く」活動 音楽による身体表現として音・声と一体となった動作であるわらべうたや手遊びを体験する。		
6	動作と声に伴う表現活動で、乳幼児の表現力の展開を考える。		
7	表現活動において「作る」活動 さまざまな活動を通して新しい発見をしたり、模倣したり、体験しながら創造的表現の喜びを感じる。		
8	歌遊びを学びの視点から捉える。乳幼児の発達の音域、テンポ、言語との関わりを理解する。		
9	歌・楽器を用いる。乳幼児の発達に即した歌を選曲し、斉唱、カノン、アンサンブルを通し、音や声の重なり合う美しさを体験する。		
10	豊かな表現のために① 季節や行事の曲を用いて、言葉の意味や情景が伝わるような歌唱方法を身に付ける。		
11	豊かな表現のために② 季節の歌を用いて、その楽譜、歌詞および歌のイメージを著わした絵本(歌の絵本)を製作し発表する		
12	協同して表現する① 絵本を題材にし、グループで、劇遊びミュージカルを製作し発表する 台本、配役、演技、小物、音楽の部門において、協同しながら実践する。		
13	発表をする。録画し、振り返りをする。		
14	協同して表現する② 伝承文化的な表現を題材にし、グループで、劇遊びミュージカルを制作し発表する。台本、配役、演技、小物、音楽の部門において、協同しながら実践する。		
15	発表をする。録画し、振り返りを通して、改善点を探り、学びに向かう力を養う。 総合的な表現活動を具体的に考える。音響、照明を入れ、学習のまとめを発表する。 定期試験は実施しない。		
アクティブラーニングの取り入れ状況	音やリズムに対するイメージをディスカッションする。(10回)。		
事前学修	授業中に出した課題を練習、作業する。(20分)		
事後学修	授業で指摘されたことを練習により克服する。(25分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	授業中に一つのテーマでコメントする。		
成績評価の方法と基準	授業での表現活動への取り組み状況(60%)、発表内容(40%)		
教科書	高御堂愛子・植田光子・木許隆編著 幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現(圭文社) 小西行郎・小西薫・志村洋子著 運動・遊び・音楽(中央法規)		
参考書等	文部科学省 幼稚園教育要領(平成29年3月告示) 内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)		
オフィスアワー	授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目(英語)	身体表現 (Physical expression)	担当教員名	千葉 正・富田 夕子
科目ナンバー	II B2①③-6	担当形態	単独・複数・ オムニバス ・クラス分け
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	1
		授業時間数/回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・ 演習 ・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・ 幼稚園教諭必修 ・保育士必修 保育士選択必修 ・准学校心理士必修
到達目標	(1) 幼児の遊びや生活での身体的な表現を理解し、見出し、受け止め、共感できる。 (2) 様々なものごとに対し、感じる・みる・聴く・楽しむ視点をもって臨み、それを身体的な活動に結び付けて、表現できるようになる。 (3) 身体で表現する楽しさを実感し、楽しさを生み出す要因について分析できる。 (4) 協同し身体表現することで他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現にする。 (5) 様々な身体的な表現の基礎的な技能を活かし、幼児の身体表現活動に展開できる。		
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につけるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	授業内容を解説した後、実技を行う。		
回	授 業 内 容		
1	領域「表現」のねらい及び内容の理解、幼児の身体的な表現の発達の理解(千葉)		
2	幼児の発達に応じた身体表現を具体的に知る(千葉)		
3	生活の中のものごとを身体的な表現であらわす、個人表現(富田)		
4	生活の中のものごとを身体的な表現であらわす、他者への呼びかけと応答のある表現活動(富田)		
5	リズムのある音に合わせた身体表現(富田)		
6	音楽に合わせた身体表現(富田)		
7	ボールを使った身体表現(富田)		
8	器具を使った身体表現(富田)		
9	身近な素材を使った身体表現(富田)		
10	ストーリーのある身体表現をグループワークでの創作、テーマ設定(富田)		
11	テーマに基づいてグループワークによる身体表現の創作(富田)		
12	グループでの身体表現の創作(富田)		
13	創作表現のグループごとの発表、相互評価の実施(富田)		
14	創作表現のグループごとの発表のDVDによる発表(富田)		
15	ICTを活用した表現活動の具体例(富田) 定期試験は実施しない		
アクティブラーニングの取り入れ状況	実技(13回)		
事前学修	シラバスを確認し、それに関する動きを習得しておく(20分)		
事後学修	与えられた課題についての動きの確認を実践する(25分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	グループ及び個人での発表について評価と改善の指導を行う。		
成績評価の方法と基準	発表(グループ、個人)(70%)、授業への参加度(グループ活動、個人活動)(30%)		
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領(平成29年3月告示) 内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示)		
参考書等	特に指定しない。		
オフィスアワー	体育館2階 301研究室 月曜日 5限 あるいは 授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	富田 ジュニア体育研究所に勤務し幼児体操の指導にあたる		

授業科目(英語)	造形表現 (Molding expression)		担当教員名	佐藤 恵一	
科目ナンバー	II B2①③-7		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	1	授業時間数/回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎造形で学んだことを活用し、感じたことや考えたことを自分なりに表現できる。 ・実技を通して、幼稚園教諭や保育士としての実践力を身につける。 				
学位授与の方針との関連	子どもに関する専門的な知識・技能を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	制作課題について、板書や配付資料で説明した後、実技を行う。				
回	授 業 内 容				
1	壁画制作①(テーマについて話し合い、構想する。)				
2	壁画制作②(彩色活動をする。)				
3	壁画制作③(彩色活動をし、修正箇所がないか検討する)				
4	壁画制作④(彩色活動をし、完成する)				
5	メッセージカードをつくる①(テーマについて話し合い、構想する。)				
6	メッセージカードをつくる②(色画用紙等を使い、立体カードを制作する。)				
7	メッセージカードをつくる③(消しゴム版画について理解し、文字や図柄を考える。)				
8	メッセージカードをつくる④(文字や図柄を転写し彫る。紙に写して完成する。)				
9	ケーキを入れる箱をつくる(制作したケーキを入れる箱のデザインを考える。)				
10	お祝いのケーキをつくる(ケーキづくりの構想を考え、制作する。)				
11	お祝いのケーキをつくる(制作し、完成する。)				
12	教室を飾る①(身近な素材を使って、カレンダーをつくる)				
13	教室を飾る②(モザイクの図案を構想する)				
14	教室を飾る③(モザイク図案を木に接着し、完成する。)				
15	自己紹介を考える(保育実習の前に、子どもたちに自分をどのように紹介するか考える。)				
	定期試験は実施しない				
アクティブラーニングの取り入れ状況	制作の構想段階で、グループワークを行う。(8回)				
事前学修	制作課題について、アイデアを考える。(20分)				
事後学修	課題作品と制作レポートを期限内に提出する。(25分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	完成作品を教室や廊下に掲示し、相互鑑賞できるようにする。制作レポートには、コメントして返却する。				
成績評価の方法と基準	課題作品70%、レポート20%、授業への貢献度10%				
教科書	特に指定しない。授業時に適宜資料を配付する。				
参考書等	文部科学省 幼稚園教育要領(平成29年3月告示) 内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示) 槇英子「保育をひらく造形表現」萌文書林				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	特になし				

授業科目(英語)	保育内容「健康」の指導法 (Curriculum and methods for childhood (Health))		担当教員名	千葉 正	
科目ナンバー	ⅡB1①②-8		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	1	授業回数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	(1) 領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造、指導上の留意点を理解している。 (2) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 (3) 小学校の教科等とのつながりを理解している。 (4) 領域「健康」の保育構想において、幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れることの重要性を理解している。 (5) 情報機器及び教材の活用法を理解し、領域「健康」の保育構想に活用できる。 (6) 領域「健康」の指導案の構造を理解し、作成できる。 (7) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善できる視点を身に付けている。 (8) 領域「健康」に関する現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組める。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	板書により重要事項を解説する。グループによる発表活動を行なう。				
回	授 業 内 容				
1	保育における領域「健康」幼児期に育みたい資質・能力について				
2	「3つの視点」と「5領域」のなかの領域「健康」について				
3	「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「健康」のねらい及び内容				
4	3歳以上児の保育にかかわるねらい及び内容のなかの健康				
5	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校教科の連携				
6	健康管理と安全能力を育む 健康指導：交通安全や避難訓練の指導と安全能力を育む援助 (特別な配慮を要する子供への指導を含む)				
7	健康な心と体を育む保育の実践(教材研究1)映像資料の活用 3歳児前半の指導計画と保育 ～心のよりどころとしての保育者の役割～				
8	健康な心と体を育む保育の実践(教材研究2)映像資料の活用 3歳児後半の指導計画と保育 ～自己発揮を支える保育者の役割～				
9	健康な心と体を育む保育の実践(教材研究3)映像資料の活用 4歳児の指導計画と保育 ～一人一人を生かす保育と保育者の役割～				
10	健康な心と体を育む保育の実践(教材研究4)映像資料の活用 5歳児の指導計画と保育 ～育ちあい、学びあう～				
11	健康な心と体を育む保育の構想(計画立案) 運動遊びを中心とした具体的な保育場面を想定した指導案作成の考え方				
12	健康な心と体を育む保育の構想(計画立案) 運動遊びの指導の実際				
13	健康な心と体を育む保育の実践(模擬保育) 幼児の動機づけや意欲を配慮し遊びを運動指導として				
14	健康な心と体を育む保育の評価と改善 ～幼児理解を保育の視点を基盤とした評価(振り返り)				
15	領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践～健康な心と体を育む活動についてのレポートを課す				
アクティブラーニング の取り入れ状況	グループワークをした後グループでのプレゼンテーションを行う(4回)				
事前学修	シラバスを確認しそれに伴う要点を習得しておくこと。(20分)				
事後学修	毎授業後期間内に、与えられた課題・レポートを提出する。(25分)				
課題(試験やレポート等) に対するフィードバック方法	講義終了後に提出されたレポートに対し、コメントを記載し返却する。				
成績評価の方法と基準	レポート(70%)、模擬授業の発表内容(30%)				
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領(平成29年3月告示) 内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)				
参考書等	特に指定しない。				
オフィスアワー	体育館 301階 研究室 月曜日 5限				
科目に関連する実務経験	特になし				

授業科目(英語)	保育内容「人間関係」の指導法 (Curriculum and methods for childhood(Human relations))		担当教員名	中尾 彩子	
科目ナンバー	Ⅱ B1①②-9		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	1	授業時間数/回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	(1) 幼稚園教育要領等に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容について理解する。 (2) 子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導ができる。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	スライドや資料映像を活用しながら理論を説明した後、模擬保育等の演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1	領域「人間関係」がめざすものー社会・文化の中で生きる子どもー				
2	園で安定感のある生活を形成するための援助のあり方ー一人一人の発達特性と集団保育の展開ー				
3	自立心を育む援助ー発達に沿った必要な援助と環境構成を考える				
4	友だちとの遊びの中で様々な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助のあり方 ーけんかの事例から援助について考えるー				
5	自他の気持ちの違いに気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助のあり方 ー折り合いがつかない事例を考えるー				
6	きまりをめぐる様々な子どもの葛藤と援助 ー子どもに経験させたい園生活や社会生活のきまりと内容を考えるー				
7	ルールのある遊びと援助ー仲間も楽しめるきまりをつくるー				
8	個の育ちと共同性の育ちを考える ー事例から対象児に対する支援、他児に対する支援、物的環境の調整、保護者支援を考えるー				
9	協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開を考えるー見通しや振り返りを活かすー				
10	子どもにとって意味のある行事のねらいと活動内容を考えるー月ごとの協同的な活動展開を考える				
11	模擬保育を通した振り返り①ーグループごとに模擬保育を行うー				
12	模擬保育を通した振り返り②ー他グループの模擬保育の評価と改善点を検討するー				
13	模擬保育を通して保育を改善する視点を身に付けるー他グループからの評価を基に改善するー				
14	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校以降の接続を考える ーかかわりの育ちと幼小接続期を考えるー				
15	領域「人間関係」を取り巻く現代的課題と動向・まとめ			定期試験は実施しない	
アクティブラーニング の取り入れ状況	グループワーク及び模擬保育を行う。(15回)				
事前学修	模擬保育を行うための指導案を作成する。(20分)				
事後学修	模擬保育での改善点を検討し、指導案を修正する。(25分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	指導案にコメントを記入し返却します。				
成績評価の方法と基準	指導案 50%, 授業への貢献度 40%, 毎授業後のレスポンスカードの内容 10%				
教科書	田宮 緑「体験する・調べる・考える 領域 人間関係」萌文書林 2013				
参考書等	文部科学省「幼稚園教育要領」 内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定 こども園教育・保育要領」 厚生労働省「保育所保育指針」				
オフィスアワー	5階 508 研究室 金曜日 4 限				
科目に関連する実務経験	特になし				

授業科目(英語)	保育内容「環境」の指導法 (Curriculum and methods for childhood(Environment))		担当教員名	千葉 正・千葉 悟	
科目ナンバー	ⅡB1①②-10		担当形態	単独・複数・ オムニバス ・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	1	授業回数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・ 演習 ・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修 ・ 幼稚園教諭必修 ・ 保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	(1) 領域「環境」のねらい、内容、全体構造、指導上の留意点を理解している。 (2) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 (3) 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と小学校以降の教科等とのつながりを理解する (4) 乳幼児の心情、認識、思考、動きを視野に入れた保育構想の重要性を理解する。 (5) 領域「環境」の特性と幼児の体験との関連を考慮した情報機器の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 (6) 指導案の構造を理解し、指導案を作成することができる。 (7) 疑似保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 (8) 領域「環境」に関わる現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	パワーポイントと配付印刷物を用いて学習内容を説明した後、演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1	環境にかかわる現代的課題、領域「環境」のねらいと内容、5領域における領域「環境」の位置づけ(千葉正)				
2	乳幼児の発達と環境構成、小学校の諸教科とのつながり(千葉悟)				
3	領域「環境」の展開の実際①(園内活動)(千葉悟)				
4	領域「環境」の展開の実際②(園外活動)(千葉悟)				
5	受講生による指導計画の立案(植物栽培の場合)(千葉悟)				
6	受講生による模擬保育(植物栽培の場合)(千葉悟)				
7	模擬保育の振り返り(植物栽培の場合)(千葉悟)				
8	標識・文字等に関わる保育の実際(千葉悟)				
9	数量・図形等に関わる保育の実際(千葉悟)				
10	生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際(千葉悟)				
11	受講生による指導計画の立案(自然物を用いた玩具作成の場合)(千葉悟)				
12	受講生による素材収集(自然物を用いた玩具作成の場合)(千葉悟)				
13	受講生による模擬保育(自然物を用いた玩具作成の場合)(千葉悟)				
14	模擬保育の振り返り(千葉悟)				
15	環境に関わる現代的課題と解決への試み(千葉悟) 定期試験は実施しない				
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワーク後、指導計画を立案する。計画に従い模擬保育を行った後、良い点、課題点等を議論する。(6回)				
事前学修	授業前に次回の課題を読んで、関連事項について調べておくこと(20分)				
事後学修	授業後期限内に課題を提出すること(25分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	課題にコメントを記入し返却する。				
成績評価の方法と基準	指導計画の作成・模擬授業の実施60%、課題への取り組み20%、授業への貢献度20%				
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領(平成29年3月告示)				
参考書等	内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	特になし				

授業科目(英語)	保育内容「言葉」の指導法 (Curriculum and methods for Childhood (Words))		担当教員名	佐々木 悦子	
科目ナンバー	II B1①②-11		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	1	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	① 領域「言葉」のねらい、内容、構造、指導上の留意点、評価の考え方を理解する。 ② 領域「言葉」に関わる内容と小学校の教科等とのつながりを理解する。 ③ 乳幼児の心情、認識、思考、動きを視野に入れた保育構想の重要性を理解する。 ④ 領域「言葉」に関わる情報機器と教材の活用法を理解し、保育構想に活用できる。 ⑤ 指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをし、保育改善の視点を身に付ける。 ⑥ 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を理解する。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	板書や配付プリントを用いて学習内容を説明した後、演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1	保育における「言葉」とは－幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容				
2	子どもの言葉の発達過程(1)－言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋と指導上の留意点				
3	子どもの言葉の発達過程(2)－書き言葉の発達の道筋と小学校における書き言葉とのつながりの理解				
4	言葉を育む環境構成と援助(1)－話したい、聞きたい意欲を生む援助				
5	言葉を育む環境構成と援助(2)－生活に必要な言葉の習得を支える援助				
6	言葉を育む環境構成と援助(3)－言葉のすれ違いやうまく伝わらないもどかしさへの援助				
7	言葉を豊かにする環境構成と援助(1)－言葉による伝え合いを育む援助				
8	言葉を豊かにする環境構成と援助(2)－文字などで伝える楽しさを生み出す援助				
9	子どもの言葉を豊かにする教材：児童文化財－絵本・物語・紙芝居などの実際と保育の中での生かし方				
10	言葉への感覚を豊かにする実践：言葉遊び(しりとり・言葉集め)－その実際と保育の中での生かし方				
11	子どもの言葉を育む保育の実践－保育実践もしくは模擬保育にむけての保育観察と指導案の作成				
12	子どもの言葉を育む保育の構想－領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定した指導案の作成				
13	子どもの言葉を育む保育の実践－保育実践もしくは模擬保育、ICTの活用				
14	子どもの言葉を育む保育の評価と改善－ICTを活用し、保育実践もしくは模擬保育の振り返り、				
試験					
15	試験の解説、「言葉」をめぐる現代的な課題と特別な配慮が必要な乳幼児への指導を踏まえた保育				
アクティブラーニング の取り入れ状況	グループワーク、討論、発表、模擬保育を行う(5回)。				
事前学修	授業前に次回の範囲を読んで、重要語句についてしらべておくこと。(20分)				
事後学修	毎授業後期限内にレポートを提出すること。(25分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	授業中にいくつかのレポートを読み上げ、その内容を受講生と共有する。質問に対しては授業中に答える。				
成績評価の方法と基準	授業への参加度(グループ討議、全体討議、模擬保育)(50%)、試験(50%)				
教科書	駒井美智子編(2018改訂)『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』(株)みらい 文部科学省 稚園教育要領(平成29年3月告示) 内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29 年告示)				
参考書等	授業中に適宜資料を配付する。				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	公立幼稚園教諭				

授業科目(英語)	保育内容「表現」の指導法 (Curriculum and methods for childhood(Composite arts))		担当教員名	千葉 正・鈴木 美樹子・佐藤 恵一	
科目ナンバー	ⅡB1①③-12		担当形態	単独・複数・ オムニバス ・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	1	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・ 演習 ・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修 ・ 幼稚園教諭必修 ・保育士必修 保育士選択必修 ・准学校心理士必修	
到達目標	<p>(1) 領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造、指導上の留意点を理解している。</p> <p>(2) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>(3) 小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(4) 領域「表現」の保育構想において、幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れることの重要性を理解している。</p> <p>(5) 情報機器及び教材の活用法を理解し、領域「表現」の保育構想に活用できる。</p> <p>(6) 領域「表現」の指導案の構造を理解し、作成できる。</p> <p>(7) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善できる視点を身に付けている。</p> <p>(8) 領域「表現」に関する現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組める。</p>				
学位授与の方針との関連	乳児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	重要事項について解説する。グループによる発表活動を行なう。				
回	授 業 内 容				
1	領域「表現」のねらい及び内容について理解する。幼児の表現あるいは表出の具体的な場面を挙げ、さらにその表現が広がる指導方法と留意点を考える。幼児期の表現活動と小学校の体育、生活、音楽、図画工作その他の教科との連続性について、具体的な実践例から考える。(千葉)				
2	種々の情報から領域「表現」の保育実践の動向や課題を知り、自らの保育構想の向上に取り組む。インクルーシブ保育における表現活動や遊びの可能性について、様々な具体的な事例を通して理解し、保育構想への活用を考える。(千葉)				
3	総合的な身体表現の構想—運動会を想定した全体計画案の作成、グループワークによる個々の計画の指導案の作成(千葉)				
4	総合的な身体表現の構想—グループによる運動会の指導案の発表、実施、相互評価(千葉)				
5	音楽表現の構想①—音遊び、音楽遊びの教材研究を行い、指導案の作成(鈴木)				
6	音楽表現の構想②—音楽的なねらいでの教材研究を行い、音楽表現の指導案を作成(鈴木)				
7	音楽表現の実践①—音遊びの模擬保育の実践、実践の省察、改善(鈴木)				
8	音楽表現の実践②—音楽表現の模擬保育の実践、実践の省察、改善(鈴木)				
9	総合的な音楽表現の構想—音楽発表会の行事を想定し、全体計画案作成、その中の個々の計画案作成(鈴木)				
10	表現活動をビデオとDVDによって映像化する手法、著作権に対する理解(鈴木)				
11	造形表現の構想①—個人による造形表現活動の指導案の作成(佐藤)				
12	造形表現の実践①—個人による模擬保育の実践、実践の省察と改善(佐藤)				
13	造形表現の構想②—身近な素材を利用した造形表現をグループで検討する。(佐藤)				
14	造形表現の構想③—身近な素材を活用した模擬保育の指導案の作成(佐藤)				
15	造形表現の実践②—グループによる模擬保育の実践、実践の省察、改善(佐藤)				
	定期試験は実施しない				
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワークをした後グループでのプレゼンテーションを行う。(10回)				
事前学修	シラバスを確認しそれに伴う要点を習得しておくこと(20分)				
事後学修	授業後期間内に、与えられた課題・レポートを提出する(25分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	講義終了後に提出されたレポートに対し、コメントを記載し返却する。				
成績評価の方法と基準	授業の取り組み・討論への貢献度(70%)、レポート(30%)				
教科書	授業中に適宜資料を配付する。				
参考書等	高御堂愛子・植田光子・木許隆編著幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現 圭文社				
オフィスアワー	千葉：体育館2階 301研究室 月曜日 5限 鈴木と佐藤：授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	特になし				

授業科目(英語)	教育原理 (Educational principle)	担当教員名	佐々木 義孝
科目ナンバー	II B1①②-13	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	2
		授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 ・保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	(1)教育学の基本的概念を身につけ、教育の目的及び機能の本質を理解する。 (2)教育の歴史の変遷を俯瞰し、現在の教育にどのように結び付いているのかを理解する。 (3)教育の思想や理念がどのように発展してきたのかを理解する。		
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につける科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	資料を配付し重要事項について講義する。		
回	授 業 内 容		
1	教育の意義と役割		
2	教育と発達		
3	教育と環境		
4	教育の歴史		
5	学校の歴史① 学校の登場		
6	学校の歴史② 近代学校の始まり		
7	学校の歴史③ 日本の学校制度～戦前まで～		
8	学校の歴史④ 日本の学校制度～戦中戦後～		
9	教育の思想① ルソーを中心に		
10	教育の思想② ペスタロッチを中心に		
11	教育の思想③ モンテッソーリを中心に		
12	教育の思想④ デューイを中心に		
13	現代の教育課題：家庭教育		
14	現代の教育課題：学校教育		
試験	試験		
15	試験の解説、現代の教育課題：地域教育		
アクティブラーニングの取り入れ状況	高校までに培った知識等を活用して自分が考える力を形成できるような質問＝応答による授業になるように意を用いる。(15回)		
事前学修	授業計画に示された内容について、資料などを読み、興味と関心を深めておく。 (90分)		
事後学修	授業で配付された資料と授業での説明を聞いて授業内容を自分の言葉で整理しておく。 (90分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	試験の解説をする。		
成績評価の方法と基準	試験(70%) 授業への取り組み(30%)		
教科書	必要に応じて資料等を配付する。		
参考書等	田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著「やさしい教育原理新版補訂版」有斐閣アルマなど、適宜紹介する。		
オフィスアワー	授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目(英語)	教職論と教育制度 (Theory of teacher's profession and education system)		担当教員名	高橋 正紀	
科目ナンバー	IB1①③-14		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	2	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	<p>(1) 公教育の担い手である教員の存在意義、教職の職業的特徴を理解している。</p> <p>(2) 教職観の変遷を踏まえ今日の教員に求められる役割、基礎的な資質能力を理解する。</p> <p>(3) 幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。</p> <p>(4) 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。</p> <p>(5) 教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。</p> <p>(6) 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</p> <p>(7) 公教育の目的、原理、理念、公教育制度を構成している教育関係法規、教育制度をめぐる諸課題について理解している。</p> <p>(8) 教育行政の理念と仕組みを理解している。</p> <p>(9) 地域との連携・協同による学校教育活動の意義、方法、地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。</p> <p>(10) 学校の危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性、諸課題について理解する。</p>				
学位授与の方針との関連	幼児期を中心とした子どもに関する専門的な知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	配付印刷物を用いて学習内容を説明する。				
回	授 業 内 容				
1	公教育の原理・理念と教職の意義				
2	教職観の変遷、教員養成の歴史と現在				
3	教員免許状取得の要件、教育実習、介護等体験				
4	教科学習の指導と教科外活動の支援、校務分掌				
5	教員の職務・サービス、教員研修の意義				
6	チーム学校への対応				
7	現代公教育制度の意義				
8	戦後の教育改革と諸法規における教育の理念・目的				
9	日本の学校制度とその特徴① 学校教育法と学校体系				
10	日本の学校制度とその特徴② 義務教育諸学校の目的・目標と幼稚園教育の位置づけ				
11	教育行政の仕組み				
12	教科書検定制度と採択のしくみ				
13	学校と地域との連携の意義と協同の仕方				
14	学校安全の目的と取組み				
試験	試験				
15	試験の解説、近年における制度上の改編と今後の方向性				
アクティブラーニングの取り入れ状況	高校までに培った知識等を活用して自分で考える力を形成できるような質問=応答による授業になるように意を用いる。(15回)				
事前学修	授業計画に示された内容について、資料などを読み知識を得ておくこと。(90分)				
事後学修	授業内容を整理しておくこと。(90分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	試験の解説をする。				
成績評価の方法と基準	筆記試験(70%)、授業への取り組み(30%)				
教科書	必要に応じて資料等を配付する。				
参考書等	教育制度研究会『要説教育制度新訂第3版』学術図書出版社				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	高等学校国語教諭として勤務				

授業科目 (英語)	教育心理学 (幼) (Educational psychology)		担当教員名	菊池 武剋	
科目ナンバー	II B2①③c15		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	2年次・後期	単位数	2	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	(1) 幼児・児童・生徒の心身の発達について基本となる知識を学ぶ。 (2) 学習と動機づけについて基礎知識を得る。 (3) 個性を踏まえた学習活動の支援・指導の重要性を知る。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期の子どもの認知的・情動的発達に関する心理学の基礎知識を身につけ、将来の教育実践の素地を醸成するための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	板書とパワーポイントを活用しながら講義形式で進める。 適宜、ショートレポートを課し、解答を求める。				
回	授 業 内 容				
1	この授業の進め方及び評価法等の案内・教育心理学とは				
2	発達：遺伝と環境① 環境説・遺伝説・相互作用説（輻輳説）と発達段階				
3	発達：遺伝と環境② 初期経験の重要性（臨界期・アタッチメント）				
4	発達：発達の諸相 運動技能・言語・認知・社会性の発達 【ショートレポート】				
5	【ショートレポート解説・質疑応答】 学習：学習の原理① 学習（経験）と本能（遺伝）				
6	学習：学習の原理② 学習理論（古典的条件付け・道具的条件づけ）				
7	学習：学習の原理③ 学習理論の応用（プログラム学習・認知行動療法）【ショートレポート】				
8	【ショートレポート解説】 動機づけ：内発的動機づけと外発的動機づけ				
9	動機づけ：原因帰属・要求水準と目標設定				
10	知能と性格：認知的機能：知能とは何か				
11	知能と性格：非認知的機能：性格とは何か 【ショートレポート】				
12	【ショートレポート解説】 個性：人格の構造と個性				
13	個性：子供の人格形成と家庭・学級集団・教師 【ショートレポート】				
14	【ショートレポート解説】 教育評価：知能と学力・学習障害 教育と個性・IQとEQ				
試験	試験				
15	試験の解説と総括				
アクティブラーニングの取り入れ状況	ショートレポート等を用いて解答を求め、解説や質疑応答を行う。				
事前学修	授業前に次回の講義内容をみて、重要語句について調べておくこと（90分）				
事後学修	配付資料やノートを復習して、知識を確実なものとする（90分）				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	ショートレポートへの解説や質疑応答を行います。				
成績評価の方法と基準	試験（70%）と小問（30%）を併せた総合評価をする。				
教科書	特に指定せず				
参考書等	藤田哲也編著「絶対役に立つ教育心理学」（ミネルヴァ書房）				
オフィスアワー	5階504研究室 火曜日4限				
科目に関連する実務経験	特になし				

授業科目(英語)	特別支援教育(幼) (Special needs education)		担当教員名	小川 博敬・高橋 榮幸	
科目ナンバー	II B1①②c16		担当形態	単独・複数・ オムニバス ・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	2	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・ 演習 ・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修 ・ 幼稚園教諭必修 ・ 保育士必修 保育士選択必修・ 准学校心理士必修	
到達目標	特別な支援を必要とする幼児や児童の置かれている状況や特性について包括的に理解する。				
学位授与の方針との関連	幼児期を中心とした子どもに関する専門的な知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	パワーポイントと配付印刷物を用いて説明を行った後、演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1	特別支援教育の制度と理念(高橋)				
2	発達障がいについて①自閉症スペクトラム障害(小川)				
3	発達障がいについて②AD/HD(小川)				
4	発達障がいについて③LD(小川)				
5	知的障がいについて(小川)				
6	視覚障がいについて(小川)				
7	聴覚障がいについて(小川)				
8	肢体不自由について(小川)				
9	病弱について(小川)				
10	通級による指導と自立活動について(高橋)				
11	個別の指導計画と個別の教育支援計画(高橋)				
12	関係機関との連携(小川)				
13	診断はないが特別な教育的ニーズのある幼児や児童について(小川)				
14	障がいと虐待について(小川)				
試験	試験				
15	試験の解説および総括(小川)				
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワークを行った後、グループごとにプレゼンテーションを行う(5回)。				
事前学修	次回の授業に関連する用語について調べておく(90分)。				
事後学修	理解が不十分であった専門用語については、文献で確認しておく(90分)。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	テストを回収後、解答の解説を行う。				
成績評価の方法と基準	試験80%、レスポンスペーパーの内容20%				
教科書	講義プリントを配付する。				
参考書等	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 教育支援資料～障害のある子供の就学手続と早期から一貫した支援の充実～(平成25年10月) その他、授業中に適宜資料を紹介する。				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	小川：自閉症者の自立支援ホーム勤務				

授業科目(英語)	保育課程総論 (General introduction to childcare curriculum)		担当教員名	岩本 智子	
科目ナンバー	Ⅱ B1①②-17		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	2	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容の充実と質の向上に資するための計画と評価について理解する。 ・教育課程・全体計画の編成と指導計画の作成の基礎的な知識を身に付ける。 				
学位授与の方針との関連	乳幼児期の養護と教育に関する基本的な専門的知識を身に付ける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	パワーポイントやDVDを活用し、講義とグループワークを取り混ぜながら進める。				
回	授 業 内 容				
1	保育の計画・幼児教育課程とは何か ー教育課程と幼児教育におけるカリキュラムの考え方				
2	保育の計画・幼児教育課程とは何か ーカリキュラムと指導計画及び指導計画の種類と実際				
3	幼稚園における教育課程/指導計画 (1) 幼稚園教育要領と教育課程と教育課程の編成の実際				
4	幼稚園における教育課程/指導計画 (2) 教育課程の編成の実際と特色ある幼稚園づくりと教育課程				
5	保育所における計画と評価 ー保育所における計画と保育所における評価				
6	子ども園における教育課程の特徴				
7	乳幼児保育のカリキュラムの実際 (1) 0歳児の養護と保育内容と計画の実際				
8	乳幼児保育のカリキュラムの実際 (2) 0歳児の記録の実際				
9	課題・演習について解説				
10	1歳児以上3歳未満児のカリキュラムの実際				
11	3歳児のカリキュラム (1) 3歳児の保育と3歳児の指導計画				
12	3歳児のカリキュラム (2) 指導案の実際と保育の展開・まとめ				
13	4歳児のカリキュラム 4歳児の保育と4歳児のカリキュラム・まとめ				
14	5歳児のカリキュラム (1) 5歳児の保育と5歳児の指導計画				
15	5歳児のカリキュラム (2) 5歳児の特徴的な活動・まとめ				
試験	筆記試験/試験の解説(試験終了後に行います)				
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワークをした後全体の中でのプレゼンテーションを行う。(2回)				
事前学修	授業前に教科書の次回の範囲を読み、重要語句について調べておくこと。(90分)				
事後学修	各自事後学習を行い、講義のテーマについて整理をすること。(90分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	レスポンスカードについては、毎週講義の中でコメントします。課題・演習についても、講義の中で解説します。				
成績評価の方法と基準	基本的な知識、理解に関する筆記試験(60%) レスポンスカードの記載内容(10%) プレゼンテーション、レポートに対する取り組み(30%)				
教科書	谷田貝公昭、石橋哲成監修「教育・保育課程論」一藝社				
参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 ・厚生労働省「保育所保育指針解説書」 ・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型こども園教育・保育要領解説」 				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	幼稚園教諭及び保育士として勤務				

授業科目(英語)	幼児理解と教育方法 (Understanding children and method of education)	担当教員名	岩本 智子
科目ナンバー	Ⅱ B2①③-18	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	2
		授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	(1) 幼児理解の理論及び方法を理解する。 (2) 幼稚園教育の目的に適した幼児理解と援助を理解する。		
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につけるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	パワーポイント、DVDを活用しながら講義形式で進める。		
回	授 業 内 容		
1	幼児理解の意義と理論を学ぶ	①幼稚園教育と幼児理解について	
2	幼児理解の意義と理論を学ぶ	②「理解する」とはについて	
3	幼児理解の意義と理論を学ぶ	③子どもの発達や学びの理解—理論と方法について	
4	幼児理解の意義と理論を学ぶ	④遊びと幼児理解について	
5	幼児理解の意義と理論を学ぶ	⑤幼児理解を深める保育者の基本的姿勢	
6	幼児理解の意義と理論を学ぶ	⑥保幼小をつなぐ理解—幼児理解と児童理解について	
7	幼児理解の方法を学ぶ	①幼児理解の目的と方法について	
8	幼児理解の方法を学ぶ	②保育の実践のための記録について	
9	幼児理解の方法を学ぶ	③クラス集団の理解と指導について	
10	幼児理解の方法を学ぶ	④保育者の自己理解と保育の改善について	
11	幼児理解の方法を学ぶ	⑤幼児のつまずきの理解とその対応について	
12	幼児理解の方法を学ぶ	⑥幼児理解を磨く場としての園内研修について	
13	幼児理解の方法を学ぶ	⑦保護者との連携と理解について	
14	幼児理解の実際を学ぶ	⑧事例を通して幼児理解とその対応を学ぶについて	
15	幼児理解の実際を学ぶ	⑨映像教材を活用した授業の展開について	
試験	筆記試験／試験の解説(試験終了後に行います)		
アクティブラーニングの取り入れ状況	保育映像や実践記録をもとにグループディスカッションを行う。(2回)		
事前学修	授業前に次回の範囲を読んで、重要語句についてしらべておくこと。(90分)		
事後学修	各自事後学習を行い、講義のテーマについて整理をすること。(90分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	レスポンスカードについては、毎週講義の中でコメントします。課題・演習についても、講義の中で解説します。		
成績評価の方法と基準	筆記試験(50%)、授業で示す課題等への取り組みと内容(50%)		
教科書	・文部科学省『幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開」』 ・神長美津子・岩立京子・岡上直子・結城孝治編著「幼児理解の理論と方法」光生館		
参考書等	・文部科学省「幼稚園教育要領」 ・内閣府 文部科学省 厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」		
オフィスアワー	授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	幼稚園教諭及び保育士として勤務		

授業科目(英語)	幼児教育相談 (Counseling and guidance in childhood education)	担当教員名	菊池 武剋
科目ナンバー	II B2①③c19	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・後期	単位数	2
		授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	① 学校及び幼児教育における教育相談の意義と理論を理解する。 ② 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解する。 ③ 教育相談の具体的な進め方やポイントを理解する。		
学位授与の 方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につけさせるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	板書とDVDを活用しながら、講義形式で進める。		
回	授 業 内 容		
1	導入(科目の位置づけ、授業の概要)		
2	保育の場における相談ニーズとカウンセリング・マインド		
3	子どもの発達理解と相談・支援		
4	保護者への対応 - 子育て支援の視点		
5	発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり		
6	子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ		
7	カウンセリング技法の活用(1) カウンセリングの基本		
8	カウンセリング技法の活用(2) カウンセリングの技法		
9	園・地域における専門家との連携		
10	地域における子育ての課題と相談		
11	基礎的対人関係のトレーニング		
12	事例(1) 子ども同士のいざこざ、仲間に入れない子ども		
13	事例(2) 不登園		
14	事例(3) 保護者からの相談		
試験	試験		
15	試験の解説および総括		
アクティブラーニング の取り入れ状況	グループワーク後、グループでのプレゼンテーション(5回)。		
事前学修	授業前に次回の範囲を読んで、重要語句について調べておくこと(90分)		
事後学修	授業後、期限内にレポートをまとめること(90分)		
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	レポートにコメントを記入し返却する		
成績評価の方法と基準	試験70%、ミニレポート30%		
教科書	小田豊・秋田喜代美編著「子どもの理解と保育・教育相談」株式会社 みらい		
参考書等	講義時に指示する		
オフィスアワー	5階504 研究室 木曜日		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目 (英語)	教育実習 I (Teaching practice I)		担当教員名	鈴木美樹子・佐々木悦子・岩本智子
科目ナンバー	II B2①-20		担当形態	単独・ 複数 ・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	2	授業時間数・回数 学内授業 30時間・2時間/週・15回 学外実習 40時間・8時間/日・5日間
授業形態	講義・ 演習 ・実験・実習 実技・ 学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・ 幼稚園教諭必修 ・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	<p>1 週間の幼稚園教育実習と行事参加実習を通し、幼稚園教諭としての基礎的実践力の育成を図るため、次の事項を目標とし、専門職としての資質の向上、専門的な知識・技術の一層の習得を目指す。</p> <p>① 幼稚園教育実習と行事参加実習の意義と目的を理解する。</p> <p>② 幼稚園教育実習と行事参加実習の観察、参加、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。</p> <p>③ 幼稚園教育実習と行事参加実習における自らの課題を意識することにより、実習への抱負及び実習目標を明確にする。</p> <p>④ 実習園での幼児の人権の尊重、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</p> <p>⑤ 幼稚園教育実習と行事参加実習の事後指導を通して、教育実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p>			
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身に付けるための科目である。			
授 業 計 画				
授業の方法	教科書を使って授業内容を説明し、個別面談をした後、1 週間の実習、報告会を行う。			
回	授 業 内 容			
1	幼稚園教育実習と行事参加実習の概要と目的 (佐々木)			
2	教育実習① 3歳児の姿 (鈴木・岩本)			
3	教育実習② 4歳児の姿 (鈴木・岩本)			
4	教育実習③ 5歳児の姿 (鈴木・岩本)			
5	実習日誌の作成方法と留意事項 (鈴木・岩本)			
6	実習日誌の作成練習① 朝の会 (鈴木・岩本)			
7	実習日誌の作成練習② 中心活動 (鈴木・岩本)			
8	実習日誌の作成練習③ 昼食 (鈴木・岩本)			
9	実習日誌の作成練習④ 帰りの会 (鈴木・岩本)			
10	実習日誌の活用方法 (鈴木・岩本)			
11	幼稚園教育実習と行事参加実習オリエンテーション (鈴木・附属認定こども園長)			
12	幼稚園教育実習と行事参加実習：8月～9月に実施 (鈴木・附属認定こども園実習担当教員)			
13	実習報告会準備 (鈴木)			
14	実習報告会 (鈴木)			
15	実習後個別面談 (鈴木) ※実習前後の面談、実習報告会の日程の詳細は後日提示する。			
アクティブラーニングの取り入れ状況	ペア、グループになり、よりよい実習日誌について議論する。(4回) 実習(40時間)			
事前学修	実習日誌の記入の練習等、授業と実習の準備をする。(30分)			
事後学修	返却された実習日誌についての指摘事項、実習について対策をする。(30分)			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	実習日誌にコメントを記入し、返却する。			
成績評価の方法と基準	レポート(50%)、実習報告会(50%)			
教科書	実習の手引き、大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規			
参考書等	文部科学省「幼稚園教育要領解説」、内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」			
オフィスアワー	授業終了時教室で			
科目に関連する実務経験	学外実習科目である。			

授業科目 (英語)	教育実習Ⅱ (Teaching practice Ⅱ)			担当教員名	鈴木美樹子・佐々木悦子・岩本智子
科目ナンバー	Ⅱ B2①-21			担当形態	単独・ 複数 ・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	4	授業時間数・回数	学内授業 40時間・8時間/週・5回 学外実習 120時間・8時間/日・15日間
授業形態	講義・ 演習 ・実験・実習 実技・ 学外実習			卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・ 幼稚園教諭必修 ・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	3週間にわたる幼稚園教育実習を通し幼稚園教諭としての実践力の育成を図るため、次の事項を目標とし、専門職としての資質の向上、専門的な知識・技術の一層の習得を目指す。 ① 幼児の理解を深める ② 教師の援助についての理解を深める ③ 指導法を工夫する ④ 保育者像をもつ				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身に付けるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	教科書を使って授業内容を説明し、個別面談をした後、3週間の実習、報告会を行う				
回	授 業 内 容				
1	教育実習の目的 (佐々木)				
2	指導案の作成方法 (鈴木・岩本)				
3	指導案の作成にかかる留意事項 (鈴木・岩本)				
4	指導案 (部分) の作成練習 (鈴木・岩本)				
5	指導案 (部分) の添削指導 (鈴木・岩本)				
6	指導案 (全日) の作成練習 (鈴木・岩本)				
7	指導案 (全日) の添削指導 (鈴木・岩本)				
8	模擬指導授業計画 (部分) (鈴木・岩本)				
9	模擬指導授業実践 (部分) (鈴木・岩本)				
10	模擬指導授業計画 (全日) (鈴木・岩本)				
11	模擬指導授業実践 (全日) (鈴木・岩本)				
12	実習に役立つ表現活動 おりがみ (鈴木・特別講師松里雪子)				
13	実習に役立つ表現活動 絵本 (鈴木・特別講師松里雪子)				
14	実習報告会準備 (鈴木)				
15	実習報告会 (鈴木)				
	試験は実施しない ※教育実習, 実習報告会, 実習後個別面談の日程の詳細は後日連絡する。				
アクティブラーニングの取り入れ状況	より良い指導案についてディスカッションした後、指導案を作成する。実習に役立つ表現活動についてディスカッションし、発表する (15回)。実習 (120時間)				
事前学修	指導案の作成練習をする。				
事後学修	実習に必要な表現活動を復習して身につける。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	指導案にコメントを記入して返却する				
成績評価の方法と基準	レポート (50%) , 実習報告会 (50%)				
教科書	実習の手引き、大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規				
参考書等	文部科学省「幼稚園教育要領解説」、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	学外実習科目である。				

授業科目(英語)	教職・保育実践演習 (Practical seminar in nursery teacher's training)	担当教員名	鈴木美樹子・中尾 彩子・館山 壮一
科目ナンバー	II B2①②-22	担当形態	単独・複数・ オムニバス ・クラス分け
開講年次・期間	2年次・後期	単位数	2
		授業回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・ 演習 ・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・ 幼稚園教諭必修 ・ 保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職に就くにあたって、使命感や責任感を持つことが出来る 2. 社会性や対人能力を発揮し、保育活動を実践することが出来る 3. 幼児理解や学級経営について理解し、検討することが出来る 4. これまでの学びをより実践的・統合的なものにすることが出来る 5. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する事が出来る 6. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う事が出来る 7. 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める事が出来る 8. 保育者として必要な知識・技術を習得したことを確認する事が出来る 9. 以上の事項を目標に、保育者としての資質・能力の向上を目的とする 		
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身に付ける科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	スライドや配付プリントを用いて学習内容を説明した後、演習等を行う。		
回	授 業 内 容		
1	オリエンテーション教職・保育実践演習について (鈴木・中尾・館山)		
2	教育実習・保育実習での学びを振り返る (中尾)		
3	附属認定こども園との協働活動① 裂き織り作りの体験と指導案作成 (中尾)		
4	附属認定こども園との協働活動② 裂き織り作り指導のロールプレイ (中尾)		
5	附属認定こども園との協働活動③ 裂き織り指導の振り返りと指導案の再検討 (中尾)		
6	附属認定こども園との協働活動④ 裂き織り作りの幼児への指導 (中尾)		
7	附属認定こども園との協働活動⑤ 裂き織り作品を幼児に渡すときのコメント作成 (中尾)		
8	附属認定こども園との協働活動⑥ 修正指導案の発表 (中尾)		
9	附属認定こども園との協働活動⑦ こどものためのファンタジックフェスティバル創作活動 (鈴木)		
10	附属認定こども園との協働活動⑧ こどものためのファンタジックフェスティバルのリハーサル (鈴木)		
11	附属認定こども園との協働活動⑨ こどものためのファンタジックフェスティバルの振り返り (鈴木)		
12	附属認定こども園との協働活動⑩ 紙を使った遊びと指導 (館山)		
13	附属認定こども園との協働活動⑪ 進級を視野に入れた指導 (館山)		
14	幼小連携について：小1プロブレムへの対策とクラス運営 (館山)		
15	アセスメントシミュレーション：アセスメント業務を体験する (館山)		
	定期試験は実施しない。		
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワークをした後、指導案を作成、実践し、振り返りを発表する(4回)。		
事前学修	授業内容に関連する文献等を読み、重要語句を調べる(文献等は各授業担当者から適宜紹介する)(90分)		
事後学修	演習などを通じて得た知識・スキルが授業の内容とどのように関連しているのかを自分の言葉で説明できるようにする(90分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	レポート等課題にコメントを記入して返却する。いくつかのレポートを授業中に取り上げ、コメントをする。		
成績評価の方法と基準	レポート(50%)、レスポンスカード・発表等への取り組み(50%)		
教科書	特になし		
参考書等	きむらゆういち、みやもとつよし著「きむらゆういち・みやもとつよしのガラクタ工作みんなで作って遊ぼう!」チャイルド社		
オフィスアワー	授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	鈴木：小学校音楽講師		

(2) 福 祉 ・ 保 健

授業科目 (英語)	保育原理 (Principles of early childhood care and education)		担当教員名	中尾 彩子	
科目ナンバー	II B1②-23		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	2	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	1. 保育の意義について理解する。 2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 3. 保育の内容と方法の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について考察する。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	パワーポイントと教科書を活用しながら講義形式で進める。				
回	授 業 内 容				
1	保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観				
2	保育に関する諸法令などからみる保育の原理				
3	幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育・保育要領の変遷				
4	保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の比較				
5	養護と教育の一体化について				
6	保育における「養護」と「教育」の意味				
7	保育実践の基本構造について①乳児保育と保育内容				
8	保育実践の基本構造について②共同性・総合性・計画性				
9	多様な保育内容とその方法				
10	子育て支援について				
11	西洋と日本の保育の創成期と発展過程				
12	倉橋惣三に学ぶ ― 児童中心主義の保育を探る				
13	“子どもの最善の利益”と“保育の質”				
14	保育を取り巻く現状				
試験	試験				
15	試験の解説とまとめ				
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワークをした後グループでのプレゼンテーションを行う (2回)				
事前学修	教科書にしたがって授業は展開されるので、必ず教科書をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。(90分)				
事後学修	ワークの復習をおこない、誤答した箇所について資料等を調べること。(90分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	理解度確認小テストを回収後、解答の解説を行う。 レポートにはコメントを記入し返却する。				
成績評価の方法と基準	授業中のアクティブラーニングなどの参加状況(30%)、基本的な知識、理解に関するまとめの小試験(30%)、期末試験(40%)による評価を行う。				
教科書	佐伯一弥他「改訂版 work で学ぶ保育原理」わかば社				
参考書等	特になし				
オフィスアワー	5階 508 研究室 金曜日 4 限				
科目に関連する実務経験	特になし				

授業科目 (英語)	子ども家庭福祉 (Child and family welfare)	担当教員名	館山 壮一
科目ナンバー	II B1②-24	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	2
		授業回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。		
学位授与の方針との関連	社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための基礎となる科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	スライドや板書、配付物等を用いて講義した後、小テスト、グループでの討議などを取り入れて理解を深める。		
回	授 業 内 容		
1	子ども家庭福祉の意義と理念：どのようなことを学ぶのか		
2	子ども家庭福祉の歴史：子どもはどのような存在だったのか		
3	子どもの権利を学ぶ：児童の権利に関する条約と人権の歴史		
4	子どもと家庭を取り巻く様々な法律と役割を理解する		
5	子ども家庭福祉の制度と実施体系1：様々な行政の役割		
6	子ども家庭福祉の制度と実施体系2：子どもを取り巻く法制度		
7	様々な児童福祉施設とその現状		
8	様々な専門職と連携		
9	社会的養護と子ども家庭福祉		
10	子ども家庭福祉の課題1：少子化・核家族・共働き上の課題		
11	子ども家庭福祉の課題2：子どもとその障害を理解する		
12	子ども家庭福祉の課題3：子どもへの虐待とDVの防止		
13	子ども家庭福祉の課題4：地域の子育て支援		
14	子ども家庭福祉の課題5：多様な保育ニーズと子どもの育ち		
試験	試験		
15	子ども家庭福祉の動向と展望及び試験の解説		
アクティブラーニングの取り入れ状況	前半に基礎的な知識を講義形式で学習した後、それに基づいて各回ごとに議題を決めてグループで事例検討・討議を行い、プレゼンテーションする(4回)。		
事前学修	シラバスを確認し、関連するニュースなどで気になる単語を調べる(90分)		
事後学修	講義後、レポートなどを作成して提出する(90分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	前回のグループワークのまとめを行うとともに、理解度確認テストなどを実施して、解答の解説を行う。		
成績評価の方法と基準	筆記試験50%、授業への取り組み50%		
教科書	特に指定しない。		
参考書等	山野則子他(編)「子ども家庭福祉の世界」(有斐閣アルマ)有斐閣		
オフィスアワー	授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目(英語)	社会福祉 (Social welfare)		担当教員名	館山 壮一	
科目ナンバー	II B2②-25		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	2	授業時間数/回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。				
学位授与の方針との関連	社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための基礎となる科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	スライドや板書、配付物等を用いて講義した後、小テスト、グループでの討議などを取り入れて理解を深める。				
回	授 業 内 容				
1	社会福祉とは何か ー社会福祉の理念と様々な概念ー				
2	社会福祉の歴史とその変遷				
3	子ども家庭支援と社会福祉 ー保育士として社会福祉を学ぶ意義を考えるー				
4	自己覚知・他者理解				
5	社会福祉の制度と法体系 ー現代の社会経済の仕組みを理解するー				
6	社会福祉行財政と実施機関				
7	社会福祉施設				
8	社会保障及び関連制度の概要				
9	相談援助の理論と歴史				
10	相談援助の意義と機能				
11	相談援助の対象と過程				
12	相談援助の方法と技術				
13	利用者の保護に関わる仕組み ー情報提供と第三者評価ー				
14	社会福祉の動向と課題1 ー少子高齢化社会における子育て支援ー				
試験	試験				
15	社会福祉の動向と課題2及び試験の解説 ー施設から地域へー				
アクティブラーニングの取り入れ状況	前半に基礎的な知識を講義形式で学習した後、それに基づいて各回ごとに議題を決めてグループで事例検討・討議を行い、プレゼンテーションする(6回)。				
事前学修	シラバスを確認し、関連するニュースなどで気になる単語を調べる(90分)				
事後学修	講義後、レポートなどを作成して提出する(90分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	前回のグループワークのまとめを行うとともに、理解度確認テストなどを実施して、解答の解説を行う。				
成績評価の方法と基準	筆記試験50%、授業への取り組み50%				
教科書	特に指定しない。				
参考書等	岩田正美他著「社会福祉入門」改訂版(有斐閣アルマ) 有斐閣				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	社会福祉士および介護施設相談員				

授業科目(英語)	子ども家庭支援論 (Childcare and family support)	担当教員名	館山 壮一
科目ナンバー	II B2②-26	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・後期	単位数	2
		授業回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。		
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につけるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	スライドや板書、配付物等を用いて講義した後、小テスト、グループワークなどで様々な事例に取り組む。		
回	授 業 内 容		
1	子ども家庭支援の意義と現代社会の変化 —現代の家庭が抱える課題を理解する—		
2	子ども家庭支援の目的と機能 —子どもにとっての家庭と家族—		
3	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義		
4	子どもの育ちとしつけ		
5	保育士に求められる基本的態度 —バイステックの7原則を活用した支援—		
6	子どもの性格形成と家庭での兄弟への対応 —親子のコミュニケーションをはかる—		
7	多様な支援の展開1 —育てにくい子どもへの対応—		
8	多様な支援の展開2 —貧困家庭への支援—		
9	多様な支援の展開3 —家庭内暴力と子どもへの虐待—		
10	多様な支援の展開4 —地域資源の活用—		
11	多様な支援の展開5 —妊娠と産後うつ—		
12	多様な支援の展開6 —家庭の再統合とファミリーソーシャルワーカー—		
13	多様な支援の展開7 —保幼小連携と家庭支援—		
14	保育士ができる支援の方法と関係機関との連携		
15	子ども家庭支援に関する現状と課題及び試験の解説		
アクティブラーニングの取り入れ状況	講義後、様々な事例を用いてグループで立場を決めて討議する(6回)。		
事前学修	シラバスを確認し、関連するニュースなどで気になる単語を調べる(90分)		
事後学修	講義後、レポートなどを作成して提出する(90分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	前回の講義内容を踏まえた理解度確認テストなどを実施し、解答の解説を行う。また、レポートを課す場合には添削して返却する。		
成績評価の方法と基準	小テスト25%、レポート25%、授業への取り組み50%		
教科書	特に指定しない		
参考書等	児童育成協会(監修)「子ども家庭支援論」(新・基本保育シリーズ)中央法規出版		
オフィスアワー	授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目 (英語)	社会的養護 I (Social care I, (basic concepts))		担当教員名	館山 壮一	
科目ナンバー	II B2②-27		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	2	授業時間数/回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身に付ける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	スライドや板書、配付物等を用いて講義した後、小テスト、グループでの討議などを取り入れて理解を深める。				
回	授 業 内 容				
1	社会的養護の理念と概念				
2	社会的養護の歴史の変遷				
3	子どもの人権擁護と社会的養護 ―子どもの様々な背景を理解する―				
4	社会的養護の基本原則				
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務				
6	社会的養護の制度と法体系				
7	社会的養護の仕組みと実施体系				
8	家庭的養護と施設養護の違いを理解する				
9	施設等の運営管理 ―施設での様々な取り組み―				
10	社会的養護と地域福祉				
11	家族の再統合1 ―親子のつながり―				
12	家族の再統合2 ―少年犯罪と更生保護―				
13	施設養護とソーシャルワーク ―専門職との連携―				
14	リービングケア・アフターケア				
試験	試験				
15	社会的養護の現状と将来の展望及び試験の解説				
アクティブラーニングの取り入れ状況	前半に基礎的な知識を講義形式で学習した後、それに基づいて各回ごとに議題を決めてグループで事例検討や討議を行い、プレゼンテーションする (4回)。				
事前学修	シラバスを確認し、関連するニュースなどで気になる単語を調べる (90分)				
事後学修	講義後、レポートなどを作成して提出する (90分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	前回のグループワークのまとめを行い、小テストなどを実施して、解答の解説を行う。				
成績評価の方法と基準	試験25%、レポート25%、授業への取り組み50%				
教科書	特に指定しない。				
参考書等	原田 旬哉 (著), 杉山 宗尚 (著) 図解で学ぶ保育 「社会的養護 I」 萌文書林				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	社会福祉士および介護施設相談員				

授業科目 (英語)	保育者論 (Lecture on nursery teacher)		担当教員名	中尾 彩子	
科目ナンバー	II B1②-28		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	2年次・後期	単位数	2	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	1. 保育者の役割や倫理、制度的な位置づけについて理解する。 2. 保育所や認定こども園の1日と保育者の役割や職務内容について理解する。 3. 具体的な場面を通して、保育者の専門性や専門職的成長について理解する。 4. 保護者や地域社会、関係機関等との連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。				
学位授与の方針との関連	保育者の役割や職務内容を理解し、乳幼児期を中心とした子どもに関する専門的知識や社会人として豊かな教養と他者への共感力を身に付けるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	教科書や配布資料、DVDやパワーポイントを活用しながら、講義形式で進め、グループワーク等を行う。				
回	授 業 内 容				
1	保育者の役割及び職務内容				
2	保育者の専門的倫理（専門職倫理・職業倫理）と法律				
3	保育者の資格と責務				
4	養護と教育が一体となった保育の展開				
5	子どもの日常生活や遊びの場面における保育者の援助				
6	子どもの育ちを支える保育者の資質・能力				
7	保育者の専門的な知識・技術・判断				
8	計画に基づく保育の実践と省察・評価（PDCAサイクル）				
9	保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性				
10	保育の質の向上と自己評価				
11	保育における職員間の連携・協働				
12	家庭との連携と保護者に対する支援				
13	地域における自治体や専門機関との連携・協働				
14	多様なニーズへ対応する保育者への期待				
試験	試験				
15	保育者のキャリア形成と生涯発達・試験の解説及び総括				
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワークやディスカッション、プレゼンテーション等を行う（4回）				
事前学修	授業前に次回の範囲を読んで、重要語句等について調べておくこと（90分）				
事後学修	授業内容を振り返りノート等に整理し、期限内にレポートを提出すること（90分） 保育者としての役割や責務を考え、必要な習慣や態度を身に付けるよう心がける。				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法	質問への解説やレポートにコメントを記入し返却します。 理解度確認テスト回収後、解答の解説を行います。				
成績評価の方法と基準	試験 60%、レポート 30%、授業への貢献度 10%				
教科書	林邦雄・谷田貝昭 監修「保育者論（保育者養成シリーズ）」一藝社				
参考書等	厚生労働省「保育所保育指針解説書」 文部科学省「幼稚園教育要領解説」 内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館				
オフィスアワー	5階 508 研究室 金曜日 4 限				
科目に関連する実務経験	特になし				

授業科目(英語)	保育の心理学 (Psychology of early childhood care and education)	担当教員名	菊池 武尅
科目ナンバー	II B1②-29	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	2
		授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	① 発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達をとらえる視点を理解する。 ② 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、養護と教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ③ 子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得する。		
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につけさせる科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	板書とパワーポイント、DVDを活用しながら、講義形式で進める。		
回	授 業 内 容		
1	人としての発達を考える(1) 関係の中で育つ		
2	人としての発達を考える(2) 社会・文化の中で育つ		
3	子どもの発達を理解することの意義		
4	家庭生活の中で育つ		
5	近隣社会への広がりの中で育つ		
6	学校生活の中で育つ		
7	子どもの発達過程(1) 社会情動的発達		
8	子どもの発達過程(2) 身体的機能と運動機能の発達		
9	子どもの発達過程(3) 認知の発達		
10	子どもの発達過程(4) 言語の発達		
11	子どもの発達過程(5) 自我の発達		
12	子どもの学びと保育(1) 乳幼児期の学びに関わる理論		
13	子どもの学びと保育(2) 乳幼児期の学びの過程と特性		
14	子どもの学びと保育(3) 乳幼児期の学びを支える保育		
試験	試験		
15	試験の解説および総括		
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワーク後、グループでのプレゼンテーション(5回)		
事前学修	授業前に次回の範囲を読んで、重要語句について調べておくこと(90分)		
事後学修	授業後、期限内にレポートをまとめること(90分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	レポートにコメントを記入し返却する		
成績評価の方法と基準	試験70%、ミニレポート30%		
教科書	沼山博・三浦主博編著「子どもとかわる人のための心理学」萌文書林		
参考書等	柏木恵子著「子どもが育つ条件」岩波新書		
オフィスアワー	5階504 研究室 火曜日		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目(英語)	子ども家庭支援の心理学 (Psychology of child and family care)	担当教員名	菊池 武尅
科目ナンバー	II B2②-30	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	2
		授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・学校心理士必修
到達目標	1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、各時期の移行、発達課題について理解する。 2) 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。		
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につけさせるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	板書とパワーポイント、DVDを活用しながら、講義形式で進める。		
回	授 業 内 容		
1	生涯発達		
2	乳幼児期の発達		
3	児童期の発達		
4	青年期の発達		
5	成人期の発達		
6	中年期の発達		
7	老年期の発達		
8	家庭・家族の理解		
9	家族・家庭の意義と機能		
10	親子関係・家族関係の理解		
11	子育ての経験と親としての育ち		
12	子育て家庭の現状と課題		
13	ライフコースと仕事・子育て		
14	子どもの精神保健とその課題		
試験	試験		
15	試験の解説および総括		
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワーク後、グループでのプレゼンテーション(5回)。		
事前学修	授業前に次回の範囲を読んで、重要語句について調べておくこと(90分)		
事後学修	授業後、期限内にレポートをまとめること(90分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	レポートにコメントを記入し返却する		
成績評価の方法と基準	試験70%、ミニレポート30%		
教科書	沼山博・三浦主博編著「子どもとかかわる人のための心理学」萌文書林		
参考書等	授業で適宜紹介する。		
オフィスアワー	5階504研究室 木曜日		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目(英語)	子どもの理解と援助 (Understanding and support of children)	担当教員名	中尾 彩子
科目ナンバー	II B2②-31	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	1
		授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	(1)子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解している。 (2)子どもの経験や学習過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解している。 (3)子どもを理解するための具体的な方法を理解している。 (4)子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解している。		
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につけさせる科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	スライドや資料映像を活用しながら理論を説明した後、ワークブック等を用いて演習を行う。		
回	授 業 内 容		
1	保育における子ども理解の意義①トートロジーから抜け出そう		
2	保育における子ども理解の意義②人の行動の「日常的」な理解の仕方		
3	保育における子ども理解の意義③人の行動の「科学的」な理解の仕方		
4	子どもの実態に応じた発達や学びの把握①経験と学習		
5	子どもの実態に応じた発達や学びの把握②馴化と脱馴化、鋭敏化		
6	子どもの実態に応じた発達や学びの把握③無条件刺激と無条件反応		
7	子どもの実態に応じた発達や学びの把握④レスポナント条件づけ		
8	子どもを理解する視点①環境としての保育者と発達		
9	子どもを理解する視点②保育の環境の理解と構成		
10	子どもを理解する方法①「そうするのはなぜ?」「その行動が続いているのはなぜ?」		
11	子どもを理解する方法②「それをしないのはなぜ?」「その行動が続かないのはなぜ?」		
12	子どもを理解する方法③レスポナント条件づけ		
13	子どもの理解に基づく発達援助①ルール支配行動と随伴性形成行動		
14	子どもの理解に基づく発達援助②学び手は常に正しいー好子を使った行動変容		
試験	試験		
15	試験の解説、子どもの理解に基づく発達援助③特別な配慮を要する子どもの理解と援助(DVD)		
アクティブラーニングの取り入れ状況	ワークブックやエクササイズを使ったグループワーク(15回)。		
事前学修	次回の箇所のワークブックを読みプログラム学習を行う(20分)		
事後学修	授業で行った箇所のワークブックを読み、プログラム学習を行う(25分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	毎授業後にプログラム学習の達成度を確認し、コメントをする		
成績評価の方法と基準	筆記試験(70%)、授業への貢献度(30%)		
教科書	吉野智富実・吉野俊彦 著(2016)「プログラム学習で学ぶ行動分析ワークブック」学苑社		
参考書等	特に指定しない。		
オフィスアワー	5階508研究室 金曜日4限		
科目に関連する実務経験	保育業務運営会社での勤務		

授業科目 (英語)	子どもの保健 (Child's health)	担当教員名	小岩 由香
科目ナンバー	II B2②-32	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	2
		授業回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	① 子どもの発育・発達、乳幼児期にかかりやすい疾患を理解する。 ② 安全と保育環境について学び、子どもが地域の中で健やかに育まれることを手助けするための知識を習得する。		
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する専門的知識を身につけるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	板書と教科書を活用しながら講義形式ですすめる。		
回	授 業 内 容		
1	子どもの健康と保健の意義		
2	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題		
3	子どもの身体発育と生理機能の発達 (身体発育・生理機能の発達)		
4	運動機能の発達・精神機能の発達・成長と発達		
5	地域における保健活動と児童虐待と防止		
6	子どもの健康状態の把握		
7	発育・発達の把握と健康診断		
8	子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 子どもの病気の特徴・感染症・免疫・アレルギー性疾患		
9	子どもの疾病の予防及び適切な対応 (2) 消化器疾患・循環器疾患		
10	子どもの疾病の予防及び適切な対応 (3) 血液系の疾患・内分泌・代謝性疾患		
11	子どもの疾病の予防及び適切な対応 (4) 神経系の疾患・腎・泌尿器疾患・先天性の疾患		
12	子どもの疾病の予防と対応 (学校保健安全法で定める疾患)		
13	学校保健安全法及び保育所における感染症対策ガイドラインによる、感染症に対する規定		
14	予防接種		
15	子どもの疾病への国の対応 (子どもの疾病に対する福祉)		
試験	試験 試験の解説 (試験後に解説を行う。)		
アクティブラーニングの取り入れ状況	これまでの経験から保健の授業と照らし合わせ、考え方の共有を行う (3回)		
事前学修	自分自身の母子手帳で幼児期の健康状態、予防摂取実施状況を確認すること (90分)		
事後学修	授業に関連した子どもを取り巻く状況について、新聞やニュースなどで現状を知ること (90分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	試験後、解答の解説を行います。 レスポンスカードの内容を、次回の授業開始時に説明を行います。		
成績評価の方法と基準	試験90% レスポンスカード10%		
教科書	大澤眞木子編著：小國美也子監修「子どもの保健～健康と安全～」日本小児医事出版社 監修：鴨下 重彦、柳澤 正義「子どもの病気の地図帳」 講談社		
参考書等	授業時間に適宜紹介する。		
オフィスアワー	授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	保健師および看護師として勤務		

授業科目 (英語)	子どもの食と栄養 (Food and nutrition for children)	担当教員名	富岡 佳奈絵
科目ナンバー	II B2②-33	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・後期	単位数	2
		授業時間数/回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得している。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解できる。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解できる。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解できる。 5. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解できる。 		
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する専門的知識を身につけるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	スライドを活用し、講義およびプリント等による演習、一部実習を行なう。		
回	授 業 内 容		
1	子どもの心身の健康と食生活		
2	子どもの食生活の現状と課題		
3	栄養の基本的概念と栄養素の種類		
4	食事摂取基準と献立作成・調理の基本		
5	乳児期における授乳・離乳の意義と食生活		
6	調理実習① 乳児期の食事 (調乳)		
7	調理実習② 乳児期の食事 (離乳食)		
8	幼児期の心身の発達と食生活		
9	学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活		
10	保育における食育の意義・目的と基本的考え方		
11	食育の内容と計画及び評価		
12	食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携、食生活指導及び食を通じた保護者への支援		
13	家庭及び児童福祉施設における食事と栄養		
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 体調不良、疾病、障害、食物アレルギー		
試験	試験		
15	試験の解説および総括		
アクティブラーニングの取り入れ状況	実習 (2回)		
事前学修	日々、食に関する話題に関心を持つように努める。授業内容について、教科書を読み確認する。(90分)		
事後学修	教科書、ノートを見直して授業内容を整理し、理解が不十分な点については教員に質問するなどして疑問点を解決する。(90分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	試験後に試験の解説を行なう。		
成績評価の方法と基準	試験 (80%) 授業への取り組み (20%)		
教科書	太田百合子, 堤ちはる編「子どもの食と栄養」羊土社		
参考書等	厚生労働省「楽しく食べる子どもに一食からはじまる健やかガイド」 厚生労働省「保育所における食事の提供ガイドライン」 厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」		
オフィスアワー	授業終了後、教室で		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目 (英語)	心理学概論 (Introduction to psychology)	担当教員名	中尾 彩子
科目ナンバー	I B2③-34	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・後期	単位数	2
		授業時間数・回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	1. 自らの心を知り、他者の心とどのように触れ合っていくかについての洞察力を身につけることができる。 2. 心理療法について学び、社会人として不可欠な姿勢・態度を身につけることができる。また、心理療法を体験することで、望ましい対人スキルの素地を築くことができるようになる。		
学位授与の方針との関連	社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	資料映像や画像を活用しながら理論を説明し、グループディスカッション等を行う。		
回	授 業 内 容		
1	心理学とは ー心の科学の誕生と発展、多様なアプローチと方法ー		
2	行動の生理・生物的基础		
3	感覚と知覚 (1) ー外界を感じる、知るー		
4	感覚と知覚 (2) ー環境は見聞きした通りではないー (実習 1)		
5	感覚と知覚 (3) ー錯視実験ー (実習 2)		
6	感覚と知覚 (4) ー触覚ー		
7	感覚と知覚 (5) ー2 触点閾ー (実習 3)		
8	記憶 ー時間と空間の拡張ー		
9	動機づけと情動 (動因と誘因) (感情・情動の由来と機能)		
10	学習 (1) 学習理論とその応用		
11	学習 (2) ー両側性転移ー (実習 1)		
12	発達 ー心の働きの発達と衰退ー 自己と他者 (こころの理論)		
13	社会心理学 ー社会的存在としての自己ー (実習 3)		
14	臨床心理学 ー環境適応者としての自己ー (実習 4)		
15	心を測るとは ー総括ー		
アクティブラーニングの取り入れ状況	授業にて 6 回程度の実習を行い、質疑応答を交えて学習を深める。		
事前学修	日常生活の中で、次回のテーマに関する行動や出来事を探す。(90 分)		
事後学修	配布プリントと講義内容をまとめ次回の授業で質疑できるようにしておく。(90 分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	1. 適宜小問を課し、レスポンスカードに解答を求め、次回の授業冒頭に解説する。 2. 各回でレポート提出を課し、次回の授業冒頭に解説する。		
成績評価の方法と基準	レポート成績(50%)、レスポンスカード小問解答評価(50%)		
教科書	適宜プリントを配付する。		
参考書等	今田寛他共著「心理学の基礎」 培風館		
オフィスアワー	5 階 508 研究室 金曜日 4 限		
科目に関連する実務経験	特になし		

授業科目(英語)	保育内容総論 (Introduction to contents of childcare and education)		担当教員名	千葉 満佐子	
科目ナンバー	II B2②-35		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・前期	単位数	1	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	<p>1. 保育内容各論の内容について、子どもの生活・遊びの中で総合的にとらえる視点をもつことができるようになる。</p> <p>2. 乳幼児の興味や関心、発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。</p> <p>3. 指導計画の考え方を理解し、発達を見通した指導計画を作成する。</p> <p>4. 保育者の役割や専門性について理解する。</p>				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する専門的な知識や技能を修得し、思考力や表現力、総合的な実践力を身に付けるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	教科書や配布資料、DVDを活用して学習内容を説明した後、演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1	保育内容とは何か：就学前施設における「保育」とは、保育内容の必要性和意義				
2	保育内容の歴史的変遷と保育の全体構造：保育の基本的な考え方、養護と教育が一体的に展開する保育				
3	乳幼児期の発達の特性と発達過程：五領域ごとにみた園生活における保育内容				
4	生活や遊びを通じた総合的な保育：遊びの本質・遊びで育つもの、生活と遊びの関係				
5	個と集団の育ちと保育内容：保育の1日と内容、生活の連続性				
6	子ども・子育て支援新制度と保育サービスの新展開、多様な保育の展開				
7	多様な保育の展開：乳児保育、長時間の保育、病児・病後児保育				
8	特別な支援を必要とする子どもの保育、実態と課題				
9	多文化共生の保育とその意義、多文化共生を目指す保育				
10	保育所・幼稚園・認定こども園における小学校との連携、就学前の保護者に対する支援				
11	保育内容を深める遊び ー新聞紙で遊ぶー				
12	保育の内容を深める遊びと指導計画作成の方法				
13	保育内容と子どもの理解：「記録」をすることは、保育に生かす保育実践記録				
14	「保育内容総論」の学習のまとめ：保育者の専門性と役割・保育の質				
試験	試験				
15	試験の解説、今後の保育内容の課題と展望				
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワークをした後、グループ及び全体でのプレゼンテーションを行う (6回)				
事前学修	次回の授業範囲を読んで、不明な語句等については調べておくこと。(20分)				
事後学修	授業内容を振り返りノートに整理するなど学んだ内容の定着を図る。 期限内に課題レポートを提出すること (25分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	質問への解説やレポートにコメントを記入し返却します。 理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。				
成績評価の方法と基準	試験 50%、レポート 30%、授業への参加 (意欲・発表等) 状況 20%				
教科書	咲間まり子編著「コンパス 保育内容総論」建帛社				
参考書等	厚生労働省「保育所保育指針解説書」 文部科学省「幼稚園教育要領解説」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	保育士および幼稚園教諭として勤務				

授業科目 (英語)	乳児保育 I (Infant childcare I)			担当教員名	高橋 トモ子 ・ 宇津野 泉
科目ナンバー	II B1②-36			担当形態	単独・複数・ オムニバス ・クラス分け
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	2	授業時間数回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習			卒業・免許・資格等の必修	卒業必修 ・幼稚園教諭必修・ 保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的を学び、歴史的変遷と乳児保育をめぐる現状を踏まえ、乳児保育の役割と機能を理解する。 2. 保育所など乳児が生活する場の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発達過程と生活や遊びについて理解する。 4. 職員間・保護者・地域の関係機関など連携や協働のなかで行われる乳児保育の在り方を理解する。 				
学位授与の方針との関連	乳幼児期は人格形成の基礎をつくる時期であることを理解し、子どもに関する専門的な知識や技能を身に付けるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	教科書や配布資料、DVDを活用しながら講義形式で進める。				
回	授 業 内 容				
1	乳児保育とは、子どもと家庭を取り巻く環境 (高橋)				
2	乳児保育の課題、保育所保育指針からみる乳児保育 (高橋)				
3	乳児保育の理念と歴史的変遷、現代における乳児保育の社会的役割 (高橋)				
4	乳児保育の制度と課題 (認可保育所・認定こども園・小規模保育・家庭的保育・乳児院) (高橋)				
5	発達の理解に基づく援助や関わりの基本 (高橋)				
6	0～6か月未満児の発達過程と保育内容 (高橋)				
7	6か月以上1歳未満児の発達過程と保育内容 (高橋)				
8	1歳以上2歳未満児の発達過程と保育内容 (宇津野)				
9	2歳以上3歳未満児の発達過程と保育内容 (宇津野)				
10	基本的な生活習慣の獲得と援助 ①食事・排泄 (宇津野)				
11	基本的な生活習慣の獲得と援助 ②睡眠・清潔の習慣・衣服の着脱 (宇津野)				
12	乳児保育における全体的な計画：指導計画の作成、指導計画に基づく保育実践、保育の省察・評価 (宇津野)				
13	乳児保育における子育て支援：保護者の育ちを支えるための保育者の役割、子育て支援の実際 (宇津野)				
14	乳児保育における連携：職員間の連携・家庭との連携・地域との連携 (宇津野)				
試験	試験				
15	試験の解説、子どもの権利及び最善の利益 (宇津野)				
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワークをした後、グループ及び全体でのプレゼンテーションを行う (4回)				
事前学修	次回の授業範囲を読んで、不明な語句等については調べておくこと (90分)				
事後学修	授業内容を振り返りノートに整理するなど学んだ内容の定着を図る。 期限内に課題レポートを提出すること。 (90分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	質問への解説やレポートにコメントを記入し返却します。 理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。				
成績評価の方法と基準	試験 60%、課題レポート 30%、授業への参加 (意欲・発表等) 状況 10%				
教科書	咲間まり子編著「コンパス 乳児保育」建帛社 社会福祉法人あすみ福祉会編「見る・考える・創りだす 乳児保育 I・II」萌文書林				
参考書等	厚生労働省「保育所保育指針解説書」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	宇津野と高橋 保育所の保育士勤務				

授業科目(英語)	乳児保育Ⅱ (Infant childcareⅡ)	担当教員名	高橋 トモ子
科目ナンバー	ⅡB2②-37	担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	1
		授業時間数/回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	1. 3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりの方を基本的な考え方を理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境構成について理解する。 3. 上記1～2を踏まえ、乳児保育における計画の作成について理解する。		
学位授与の方針との関連	3歳未満児の心と体の発達とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための援助や環境の構成など、専門的な知識や技術を習得するための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	授業計画に沿って学習したことをイメージし、実践に結びつけることができるようにビデオや事例検討、また実際に乳児の遊び(おもちゃ、手遊び、絵本など)も取り入れながら、幅広く“乳児の世界”を学んでいく。		
回	授 業 内 容		
1	乳児保育の基本①：子どもと保育士等との関係の重要性		
2	乳児保育の基本②：子どもの主体性の尊重と自己の育ち		
3	保育所の1日：生活の流れと保育の環境		
4	乳児保育の内容と方法①：0歳児保育と生活・遊び		
5	乳児保育の内容と方法②：0歳児における保育の計画の実際		
6	乳児保育の内容と方法③：1歳児の発育と生活・遊び		
7	乳児保育の内容と方法④：1歳児における保育の計画の実際		
8	乳児保育の内容と方法⑤：2歳児の保育と生活・遊び		
9	乳児保育の内容と方法⑥：2歳児における保育の計画の実際		
10	乳児の心身の健康と安全		
11	乳児の保育課程と指導計画①：長期的な指導計画と短期的な指導計画		
12	乳児の保育課程と指導計画②：個別的な指導計画と集団の指導計画		
13	乳児期の環境と人間関係		
14	乳児保育における保育者の専門性と資質向上に向けて		
試験	試験		
15	試験の解説、乳児保育のこれからと保育者に望まれるもの		
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワークをした後、グループ及び全体でのプレゼンテーションを行う。(6回)		
事前学修	次回の授業範囲を読んで、不明な語句等について調べておくこと。(20分)		
事後学修	授業内容を振り返りノートに整理するなど学んだ内容の定着を図る。期限内に課題レポートを提出すること。(25分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	質問への解説やレポートにコメントを記入し返却します。理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。		
成績評価の方法と基準	筆記試験50%、課題・レポート30%、授業への参加(意欲・発表等)状況20%		
教科書	咲間まり子編著「コンパス 乳児保育」建帛社 社会福祉法人あすみ福祉会編「見る・考える・創り出す 乳児保育Ⅰ・Ⅱ」萌文書林		
参考書等	厚生労働省「保育所保育指針解説書」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館		
オフィスアワー	授業終了時教室で		
科目に関連する実務経験	保育士として保育所の勤務		

授業科目 (英語)	子どもの健康と安全 (Child's health and safety)		担当教員名	小岩 由香	
科目ナンバー	II B2②-38		担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	1	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	① 子どもの健康・安全にかかる、保健活動計画の立案・評価方法を知る。 ② 子どもの身体計測等の器具の取り扱いや日常の養育技術を習得する。 ③ 子どもの疾病と予防対策及び早期発見のための知識を身につけ、初期対応を理解する。 ④ 救急時の対応や事故防止・安全な保育環境作りを理解する。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する専門的知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	板書と教科書を活用しながら講義形式で進めます。 計測器具の適切な使用方法について演習を行います。				
回	授 業 内 容				
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助				
2	保育における健康安全管理の実際				
3	保育における健康安全管理の実際 (1)衛生管理				
4	保育における健康安全管理の実際 (2)事故防止及び安全対策理・危機管理・災害への準備				
5	子どもの体調不良等に対する適切な対応				
6	子どもの体調不良等に対する適切な対応 (1)体調不良や傷害が発生した場合の対応				
7	子どもの体調不良等に対する適切な対応 (2)応急処置・救急処置及び救急蘇生法				
8	感染症対策				
9	保育における保健的対応				
10	個別な配慮を必要とする子どもへの対応 (1)子どもの心の健康とその課題				
11	個別な配慮を必要とする子どもへの対応 (2)慢性疾患、アレルギー性疾患等				
12	障害のある子どもへの対応				
13	健康安全管理の実施体制				
14	母子保健・地域保健と保育				
15	家庭・専門機関・地域との連携				
試験	試験と試験の解説				
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワーク後グループでのプレゼンテーションを行う (3回)				
事前学修	乳幼児期に罹患した自身の疾患について家族に確認しておくこと (20分)				
事後学修	授業後、自身の健康状態と学んだ内容を照らし合わせてください (25分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	試験後、解答の解説を行います。				
成績評価の方法と基準	試験90% レスポンスカード10%				
教科書	監修：大澤真木子編著：小國美也子「子どもの保健～健康と安全～」日本小児医事出版社 監修：鴨下重彦、柳澤正義「子どもの病気の地図帳」講談社				
参考書等	授業時間に適宜紹介する。				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	保健師および看護師の勤務				

授業科目（英語）	社会的養護Ⅱ (Social careⅡ, (practical contents))			担当教員名	館山 壮一
科目ナンバー	Ⅱ B2②-39			担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	1	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習			卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	スライドや板書、配付物等を用いて講義した後、小テスト、グループでの討議などを取り入れて理解を深める。				
回	授 業 内 容				
1	社会的養護の基礎と子どもの理解				
2	施設養護における支援1 ー日常生活支援、治療的支援ー				
3	施設養護における支援2 ー自立支援、自己実現ー				
4	施設養護の生活特性及び実際				
5	家庭養護の生活特性及び実際				
6	アセスメントの実施				
7	個別支援計画の作成				
8	記録の意義と自己評価				
9	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践1 ー支援者としての資質と倫理ー				
10	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践2 ー保育者自身を守るー				
11	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術				
12	相談援助の知識・技術を活かした実践事例1				
13	相談援助の知識・技術を活かした実践事例2				
14	相談援助の知識・技術を活かした実践事例3				
試験	試験				
15	社会的養護における家庭支援との関連性 ー保育士の業務を振り返るー				
アクティブラーニングの取り入れ状況	前半に基礎的な知識を講義形式で学習した後、それに基づいて各回ごとに議題を決めてグループで事例検討・討議を行い、プレゼンテーションする（10回）。				
事前学修	シラバスを確認し、関連するニュースなどで気になる単語を調べる（20分）				
事後学修	講義後、レポートなどを作成して提出する（25分）				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法	前回のグループワークのまとめを行うとともに、理解度確認テストなどを実施して、解答の解説を行う。				
成績評価の方法と基準	期末レポート50%、授業への取り組み50%				
教科書	特に指定しない。				
参考書等	児童育成協会（監修）「社会的養護Ⅱ」 中央法規出版				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	社会福祉士・介護施設相談員				

授業科目 (英語)	子育て支援(Childcare and parenting support)		担当教員名	中尾 彩子・館山 壮一	
科目ナンバー	II B2②-40		担当形態	単独・複数・ オムニバス ・クラス分け	
開講年次・期間	2年次・後期	単位数	1	授業時間数・回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・ 演習 ・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・ 保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	(1)子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の展開について具体的に理解している (2)子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその実際を理解している				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用することを身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	DVD やグループワークを通して演習を行う				
回	授 業 内 容				
1	子どもの保育とともに行う保護者の支援			(館山)	
2	子ども及び保護者の状況・状態の把握			(館山)	
3	支援の実践・記録・評価・カンファレンス			(館山)	
4	人はなぜ相談するのか：アウトリーチの考え方			(館山)	
5	様々な子育ての場面と相談事例			(館山)	
6	職員間の連携・協働：相談支援の基礎となるものを身につける			(館山)	
7	保護者対応を論理的に捉える：保護者は何を求めているのか			(館山)	
8	子育て家庭に対する支援の実際①保育所における支援とその実際			(中尾)	
9	子育て家庭に対する支援の実際②特別な配慮を要する子ども及び家庭に対する支援とその実際(DVD)			(中尾)	
10	子育て家庭に対する支援の実際③エコグリッドとエコマップ、ジェノグラム			(中尾)	
11	子育て家庭に対する支援の実際④傾聴と来談者中心療法(DVD)			(中尾)	
12	子育て家庭に対する支援の実際⑤信頼関係を築く傾聴の姿勢			(中尾)	
13	子育て家庭に対する支援の実際⑥共感的理解			(中尾)	
14	子育て家庭に対する支援の実際⑦保護者との面談のロールプレイング			(中尾)	
15	子育て家庭に対する支援の実際⑦保護者をエンパワーメントする レポートの提出を課す。(中尾・館山)			(中尾)	
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワーク及びロールプレイング(4回)(中尾)。 事例をもとにした討議(6回)(館山)				
事前学修	地域の子育て支援の資料を集め整理する(20分)				
事後学修	授業でのノートをまとめ気になった箇所を調べる(25分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	レポートにコメントを記入し返却する(中尾・館山) 課題に対しての意見をまとめ、次の回にコメントする(館山)				
成績評価の方法と基準	レポート50%、授業への貢献度50%				
教科書	特に指定しない。				
参考書等	児童育成協会(監修)「子育て支援(新・基本保育シリーズ)」中央法規出版				
オフィスアワー	中尾：5階508研究室 金曜日4限 館山：授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験	保育業務運営会社勤務(中尾) 介護施設相談員・社会福祉士(館山)				

保育実習Ⅰ（保育所）

授業科目（英語）	保育実習Ⅰ（保育所） （Childcare trainingⅠ）		担当教員名	千葉 正・中尾 彩子・館山 壮一	
科目ナンバー	ⅡB2②-41		担当形態	単独・ 複数 ・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	2	授業時間数/回数	学外実習 80時間・8時間/日・10日間
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・ 学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・ 保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	<p>(1) 保育所において乳幼児の活動や保育士の援助等を観察し、更に保育活動に参加することにより、乳幼児について理解することが出来る。</p> <p>(2) 保育所が担っている機能と役割について理解することが出来る。</p> <p>(3) 保育士の職務や倫理について理解し、実習生として遵守することが出来る。</p> <p>(4) 保育士の職務について正しい認識を身につけることが出来る。</p> <p>(5) 建学の精神を基本とした人間性豊かな保育士として活動するために必要な知識と技能を習得することが出来る。</p>				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善する、また、社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	1年後期の2月に保育所等でおおよそ10日間の実習を行う。実習先の保育士と同様の勤務形態の中で、実習園の実態に合わせ見学実習や部分実習を担当保育士の指導の下に実践的な体験を通して学ぶ。				
回	授 業 内 容				
	<p>実習中は実習園の職員の指導の下に次のような学習を行う</p> <p>① 実習する保育所の機能と役割、更に沿革や保育方針について理解する</p> <p>② 保育活動に参加し1日の生活の流れ（登園、遊び、昼食、降園の様子など）を理解し、その記録について学習する</p> <p>③ 子どもを観察したり関わったりしながら乳幼児の発達を理解する</p> <p>④ 保育計画・指導計画について学習する</p> <p>⑤ 保育活動や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する</p> <p>⑥ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する</p> <p>⑦ 施設設備と遊具や敷地状況について理解する</p> <p>⑧ 保護者とのコミュニケーション等を通じて家庭を理解することを学ぶ</p> <p>⑨ 保育士としての役割と業務内容、職業倫理について学習する</p> <p>⑩ 子どもの安全と疾病予防に対する配慮について学習する</p> <p>⑪ 反省とまとめ</p> <p>※実習期間中の活動を反省し日常生活や大学での学習につなげる。</p>				
アクティブラーニングの取り入れ状況	実習（おおよそ10日）				
事前学修	保育実習指導Ⅰの授業内容を基にして確実に準備を行う。（合計して200分）				
事後学修	実習後は、実習中に見つけた課題や指導担当者から指摘された事柄について確実に学習と練習を行うこと。実習園で事前の指導を受けた際に指示された注意事項をしっかりと守り、事前準備を十分に行った上で実習生として自覚をもって積極的に実習に取り組むこと。（合計して250分）				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法	実習日誌、指導案、レポート、報告会の内容について個別面談を行う。				
成績評価の方法と基準	実習園からの評価60%、実習報告会における取り組み状況など40%				
教科書	厚生労働省編「保育所保育指針」				
参考書等	厚生労働省編「保育所保育指針解説書」、実習園で指定された参考書等				
オフィスアワー	千葉：体育館302 研究室月曜日5限 中尾：5階508 研究室 金曜日4限 館山：5階509 研究室 月曜日5限				
科目に関連する実務経験	学外実習科目である。				

保育実習 I (施設)

授業科目 (英語)	保育実習 I (施設) (Childcare training I)		担当教員名	千葉 正・中尾 彩子・館山 壮一	
科目ナンバー	II B2②-41		担当形態	単独・ 複数 ・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	2	実習回数・回数	80時間・8時間/日・10日間
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・ 学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・ 保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	<p>1. 施設において入所者および利用者の活動や保育士の援助等を観察し、更に活動に参加することにより、福祉施設が担っている機能・保育士の職務や倫理について学習する。</p> <p>2. 福祉施設の機能についての理解を深めると共に、保育士の職務について正しい認識を身につける。その上で、卒業後には建学の精神を基本とした人間性豊かな保育士として活動するために必要な知識と技能を習得する。</p>				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善する。また、社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	2年前期に児童福祉施設等でおおよそ10日間の実習を行う。実習先の職員・施設保育士と同様の勤務形態の中で、施設や利用者・入居者の生活実態に触れ、見学実習や部分実習を担当職員の指導の下に実践的な体験を通して学ぶ。				
回	授 業 内 容				
	<p>「実習中の学習内容」</p> <p>実習中は施設職員の指導の下に次のような学習を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習する施設の機能と役割、更に沿革や運営方針について理解する ② 施設の一日の生活と一日の流れを理解し、その記録について学習する ③ 子どもを観察したり関わったりしながらその記録について学習する ④ 子どもの個々の状態に応じた援助や関わりを理解する ⑤ 計画に基づく活動に参加し、活動への援助について学習する ⑥ 人的・物的環境や子どもの心身に応じた援助や関わりについて学習する ⑦ 支援計画を理解し、活用方法を学習する ⑧ 保育士としての役割と業務内容、職業倫理について学習する ⑨ 子どもの安全と疾病予防に対する配慮について学習する <p>※①～⑨まで、一日の活動を反省し、翌日の準備を行う</p> <p>⑩ 反省とまとめ</p> <p>※実習期間中の活動を反省し日常生活や大学での学習につなげる</p>				
アクティブラーニングの取り入れ状況	実習 (おおよそ10日)				
事前学修	保育実習指導 I の授業内容を基にして確実に準備を行う。(合計して200分)				
事後学修	実習後は、実習中に見つけた課題や指導担当者から指摘された事柄について確実に学習と練習を行うこと。施設で事前の指導を受けた際に指示された注意事項をしっかりと守り、事前準備を十分に行った上で実習生として自覚をもって積極的に実習に取り組むこと。(合計して250分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	実習日誌、指導案、レポート、報告会の内容について個別面談を行う。				
成績評価の方法と基準	実習先施設・実習園からの評価60%、実習報告会における取り組み状況など40%				
教科書	厚生労働省編「保育所保育指針」				
参考書等	厚生労働省編「保育所保育指針解説書」、実習園で指定された参考書等				
オフィスアワー	千葉：体育館302研究室 月曜日5限 中尾：5階508研究室 金曜日4限 館山：5階509研究室 月曜日5限				
科目に関連する実務経験	学外実習科目である。				

授業科目 (英語)	保育実習指導 I (Guidance to childcare training I)		担当教員名	千葉 正・中尾 彩子・館山 壮一	
科目ナンバー	II B2②-42		担当形態	単独・ 複数 ・オムニバス・クラス分け	
開講年次・期間	1年次・後期	単位数	2	授業時間数/回数	30時間・2時間/週・15回
授業形態	講義・ 演習 ・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・ 保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修	
到達目標	(1) 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 (2) 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 (3) 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善するための知識を身につけるための科目である				
授 業 計 画					
授業の方法	スライドや映像資料を用いながら演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1	オリエンテーション 保育実習について			(千葉・中尾)	
2	保育所の役割と機能 - 保育所の生活と一日の流れ -			(中尾)	
3	事務手続きについて			(中尾)	
4	保育実習記録の書き方 <概要>			(中尾)	
5	保育実習記録の書き方 <事例>			(中尾)	
6	エピソードの書き方 <事例>			(中尾)	
7	子どもへの援助やかかわり① - 沐浴の実際 - 特別講師 認定龍澤寺こども園 石川裕子 氏			(千葉)	
8	子どもへの援助やかかわり② - 沐浴の実際 - 特別講師 認定龍澤寺こども園 石川裕子 氏			(千葉)	
9	専門職としての保育士の役割と職業倫理① - 0・1・2歳児の保育を通して -			(千葉)	
10	専門職としての保育士の役割と職業倫理② - 3・4・5歳児の保育を通して -			(千葉)	
11	障害者施設の概要			(館山)	
12	児童福祉施設の概要			(館山)	
13	実習報告会準備			(千葉・中尾)	
14	実習報告会① Aグループ			(千葉・中尾)	
15	実習報告会② Bグループ			(千葉・中尾)	
アクティブラーニングの取り入れ状況	グループワーク及び発表 (12回)。				
事前学修	実習に必要な書類や資料を集め整理する。(90分)				
事後学修	日誌やエピソード記録等の加筆・修正を行う。(90分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	提出物に対してコメントを記入し返却する。				
成績評価の方法と基準	授業への貢献度 40%, レポート 20%, 発表内容 40%				
教科書	実習の手引き				
参考書等	厚生労働省「保育所保育指針」				
オフィスアワー	千葉: 体育館 302 研究室 中尾: 5階 508 研究室 館山: 5階 509 研究室				
科目に関連する実務経験	特になし				

授業科目（英語）	保育実習Ⅱ (Childcare trainingⅡ)			担当教員名	千葉 正・中尾 彩子
科目ナンバー	Ⅱ B2③-43			担当形態	単独・ 複数 ・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	1	実習時間数・回数	80時間・8時間/日・10日間
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・ 学外実習			卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修 ・准学校心理士必修
到達目標	(1) 保育実習Ⅰで学んだことを踏まえ、保育所の活動について具体的な実践を通して理解を深めることができる (2) 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価について実際に取り組み、理解を深めることができる (3) 保育士の業務内容について具体的な実践に結びつけて理解することができる (4) 保育士の職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる (5) 保育士としての自己の課題を明確化することができる				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善する、また、社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である				
授 業 計 画					
授業の方法	2年次前期に保育所等でおおよそ10日間の実習を行う。実習先の保育士と同様の勤務形態の中で、実習園の実態に合わせ、担当保育士の指導の下、部分実習や全日実習を行い、実践的な体験を通して学ぶ。				
回	授 業 内 容				
	実習中は実習園の職員の指導の下に次のような学習を行う。 ① 実習する保育所で行われている養護と教育が一体となっている保育を学ぶ。 ② 保育活動に参加し一日の生活の流れ（登園、遊び、昼食、降園の様子など）を観察・記録し、理解する。 ③ 保育士の子どもとのかかわり方や動きを観察し理解する。 ④ 子どもの活動と保育指導案について学習する。 ⑤ 作成した保育指導計画案に基づき、部分実習を行う。 ⑥ 保育計画、保育実践、省察、評価といった保育過程の一連の流れを理解する。 ⑦ 長時間保育や、交代勤務などを経験し、保育士間の連携やチームワークを学ぶ。 ⑧ 保育士としての役割と業務内容、職業倫理について学習する。 ⑨ 子どもの保護者への対応などの家庭との連携について学ぶ。 ⑩ 作成した保育指導計画案に基づき、全日実習を行う。 ⑪ 反省とまとめを行い、自己の課題を明確化する。				
アクティブラーニングの取り入れ状況	実習（10日）				
事前学修	保育実習指導Ⅱの授業内容を基にして確実に準備を行う。（合計して200分）				
事後学修	実習後は、実習中に見つけた課題や指導担当者から指摘された事柄について確実に学習と練習を行うこと。実習園で事前の指導を受けた際に指示された注意事項をしっかりと守り、事前準備を十分に行った上で実習生として自覚をもって積極的に実習に取り組むこと。（合計して250分）				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法	実習日誌、指導案、レポート、報告会の内容について個別面談を行う				
成績評価の方法と基準	実習園からの評価60%、実習報告会への取り組み40%				
教科書	厚生労働省編「保育所保育指針」				
参考書等	厚生労働省編「保育所保育指針解説書」、実習園で指定された参考書等				
オフィスアワー	千葉：体育館302 研究室 中尾：5階508 研究室				
科目に関連する実務経験	学外実習科目である				

授業科目 (英語)	保育実習指導Ⅱ (Guidance to Childcare trainingⅡ)			担当教員名	千葉 正・中尾 彩子
科目ナンバー	Ⅱ B2③-44			担当形態	単独・複数・ オムニバス ・クラス分け
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	1	授業時間数・回数	28時間・4時間/週・7回
授業形態	講義・ 演習 ・実験・実習 実技・学外実習			卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修 ・准学校心理士必修
到達目標	<p>(1) 保育実習の意義と目的を理解し、子どもの最善の利益とは何かを学ぶことを通して、保育士の専門性と職業倫理について理解する。</p> <p>(2) 本授業を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確に理解する。</p> <p>(3) 実習やその他関連授業を通して、保育の改善についての実践や事例を学び、保育実践力を培うことができる。</p>				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善するための知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	スライドや映像資料を用いながら演習を行う				
回	授 業 内 容				
1	オリエンテーション/実習Ⅰ(保育所)の振り返り				(千葉)
2	保育実習Ⅰで指摘された注意点及び改善について				(千葉)
3	事務手続きについて				(中尾)
4	実習園への電話のかけ方とオリエンテーションへの心構え				(千葉)
5	実習日誌の書き方及び間違いやすい漢字				(中尾)
6	実習における保育者や保護者とのかかわり方				(千葉)
7	子どもの状態を理解し、子どもの行動を予測する				(中尾)
8	音楽、ペープサート、パネルシアター等を活かした保育実践				(中尾)
9	部分実習指導計画案の書き方				(中尾)
10	部分実習指導計画案の作成				(中尾)
11	全日実習指導計画案の書き方				(中尾)
12	全日実習指導計画案の作成				(中尾)
13	実習報告会準備				(千葉・中尾)
14	実習報告会①Aグループ				(千葉・中尾)
15	実習報告会②Bグループ				(千葉・中尾)
アクティブラーニングの取り入れ状況	模擬保育やグループワーク及び発表を行う(14回)。				
事前学修	実習に必要な制作物及び指導案の作成(25分)				
事後学修	日誌及び指導の修正(26分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	提出物に対してコメントを記入し返却する。				
成績評価の方法と基準	授業への貢献度40%, レポート20%, 発表内容40%				
教科書	実習の手引き				
参考書等	厚生労働省「保育所保育指針」				
オフィスアワー	千葉: 体育館302 研究室 月曜日 5限 中尾: 5階508 研究室				
科目に関連する実務経験	保育業務運営会社での勤務(中尾)				

授業科目(英語)	保育実習Ⅲ (Childcare training Ⅲ)	担当教員名	千葉 正・館山 壮一
科目ナンバー	Ⅱ B2③-45	担当形態	単独・ 複数 ・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	2
		実習回数・回数	80時間・8時間/日・10日間
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・ 学外実習	卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修 ・准学校心理士必修
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を身につける。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。 		
学位授与の方針との関連	専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善する、また、社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。		
授 業 計 画			
授業の方法	実習先職員・保育士と同様の勤務形態の中で、実習先の実態に合わせ担当指導者の下、生活支援や活動支援を行い、実践的な体験を通して施設と保育士の役割について学ぶ。		
回	授 業 内 容		
	<p>「実習中の学習内容」</p> <p>実習中は実習園の職員の指導の下に次のような学習を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2. 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化 		
アクティブラーニングの取り入れ状況	実習(10日)		
事前学修	保育実習指導Ⅲの授業内容を基にして確実に準備を行う。(合計して200分)		
事後学修	実習後、担当指導者から指摘された事柄や日誌に記入した内容、記入いただいたコメントをよく読み、保育士として自身の行動を正すこと。(合計して250分)		
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	実習日誌、指導案、レポート、報告会の内容について個別面談を行う。		
成績評価の方法と基準	実習施設からの評価60%、実習報告会への取り組み40%		
教科書	特に指定しない。		
参考書等	田中利則(監修)、加藤洋子・一瀬早百合(編集)、「事例を通して学びを深める 施設実習ガイド」ミネルヴァ書房		
オフィスアワー	千葉: 体育館302 研究室 館山: 5階509 研究室		
科目に関連する実務経験	学外実習科目である。		

授業科目 (英語)	保育実習指導Ⅲ (Guidance to childcare trainingⅢ)		担当教員名	千葉 正・館山 壮一	
科目ナンバー	Ⅱ B2③-46		担当形態	単独・複数・ オムニバス ・クラス分け	
開講年次・期間	2年次・前期	単位数	1	実習回数・回数	28時間・4時間/週・7回
授業形態	講義・ 演習 ・実験・実習 実技・学外実習		卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修 ・准学校心理士必修	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善する。また、社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	前半でスライド等を使用し講義を行った後、具体的な事例をもとに演習や質疑応答などを取り入れて理解を深める。				
回	授 業 内 容				
1	実習の意義とスケジュール			(千葉・館山)	
2	オリエンテーションの注意事項：アポイントのとり方や服装の確認			(館山)	
3	施設実習の注意事項：オリエンテーションの内容を理解して実習に挑む			(館山)	
4	実習日誌の書き方1			(館山)	
5	実習日誌の書き方2			(館山)	
6	施設保育士の専門性と職業倫理（職員や利用者との関わり方）			(館山)	
7	実習施設での過ごし方			(館山)	
8	よくある実習中のトラブルとトラブル発生時の対応			(館山)	
9	児童養護施設について	特別講師：渡部 俊幸園長	藤の園	(千葉)	
10	児童養護施設の事例から	特別講師：佐藤 道也氏	藤の園	(千葉)	
11	施設における支援	特別講師：小野 仁志	レスパイトハウス・ハンズ会長	(千葉)	
12	利用者の利益と支援	特別講師：小野 仁志	レスパイトハウス・ハンズ会長	(千葉)	
13	知的障がいとその対応	特別講師：小笠原 隆	黄金荘 副施設長	(千葉)	
14	実習生としての関わり方	特別講師：小笠原 隆	黄金荘 副施設長	(千葉)	
15	実習の総括と自己評価 ー反省と振り返りー			(館山・千葉)	
アクティブラーニングの取り入れ状況	日誌の記入方法について事例をもとにグループで記入・修正し合う。オリエンテーションの内容をグループで確認するなどのグループワーク（8回）。				
事前学修	実習の手引きや昨年度の実習報告会資料を熟読する。（25分）				
事後学修	日誌の記入で直された点や気をつける点を復習する。（26分）				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	提出物に対してコメントを記入し返却する。				
成績評価の方法と基準	授業への取り組み方 40%, レポート 20%, 発表内容 40%				
教科書	実習の手引き				
参考書等	田中利則（監修），加藤洋子・一瀬早百合（編集）「事例を通して学びを深める 施設実習ガイド」ミネルヴァ書房				
オフィスアワー	千葉：体育館 302 研究室 館山：5階 509 研究室				
科目に関連する実務経験	特になし				

授業科目(英語)	総合表現 (Composit arts)			担当教員名	鈴木 美樹子
科目ナンバー	II B2--47			担当形態	単独・複数・オムニバス・クラス分け
開講年次・期間	2年次・後期	単位数	2	実習回数・回数	60時間・4時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・実習 実技・学外実習			卒業・免許・資格等の必修	卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	① リズムダンスを中心とした舞台を制作することができる。 ② 作成したプログラムを発表会で披露することができる。 ③ リズムダンス群舞で協調する喜びを味わうと共に総合的表現の活動を製作から発表まで経験し、実践を学ぶ。				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身に付ける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	学習内容を説明した後、演習を行う。1回の授業は4時間(2コマ)とする。				
回	授 業 内 容				
1	フェスティバル① テーマの設定、プログラム構成を考える				
2	フェスティバル② プログラムを具体的に考える				
3	フェスティバル③ ステージAの企画を考える				
4	フェスティバル④ ステージAの構成、編曲を考える				
5	フェスティバル⑤ ステージAの企画、構成、リズム編曲を考える				
6	フェスティバル⑥ ステージBの構成を考える				
7	フェスティバル⑦ ステージBの編成を考える				
8	フェスティバル⑧ ステージCの構成を考える				
9	フェスティバル⑨ ステージCの編成を考える				
10	フェスティバル⑩ リズム体操の企画、構成を考える				
11	フェスティバル⑪ リズム体操の編曲、振り付けを考える				
12	フェスティバル⑫ 附属こども園園児との企画を考える				
13	フェスティバル⑬ 附属こども園園児との構成を考える				
14	使用会場におけるリハーサル(一関文化センター大ホール)				
15	公開発表会「こどものためのファンタジックフェスティバル」(一関文化センター大ホール)				
アクティブラーニングの取り入れ状況	ディスカッションしながら発表製作する(15回)。				
事前学修	グループごとにアンサンブルや振り付け、絵画小物制作などを行う授業であることから、授業外での打ち合わせや練習を繰り返すこと。(45分)				
事後学修	発表会の舞台演出に必要な制作物などの作成を積極的に行うこと。(45分)				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	発表に対してコメントをする。				
成績評価の方法と基準	授業での創作活動状況(50%)、表現活動への取り組み状況(50%)				
教科書	特に指定なし				
参考書等	植田光子・高後堂愛子・木許隆 編著(2017)「楽しい音楽表現」圭文社 など				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関する実務経験	小学校音楽講師				

授業科目（英語）	卒業研究 (Graduation research)			担当教員名	千葉 正・鈴木 美樹子・佐藤 恵一 中尾 彩子・館山 壮一
科目ナンバー	II B1--48			担当形態	単独・複数・オムニバス・ クラス分け
開講年次・期間	2年次・通年	単位数	2	授業時間数・回数	90時間・ 前期30時間・2時間/週・15回 後期60時間・4時間/週・15回
授業形態	講義・演習・実験・ 実習 実技・学外実習			卒業・免許・資格 等の必修	卒業必修 ・幼稚園教諭必修・保育士必修 保育士選択必修・准学校心理士必修
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの専門知識と実習実技の技能を生かし、研究テーマを設定できる。 2. 研究を遂行する実習あるいは調査などの計画を立てることができる。 3. 実習あるいは調査を実施し、得られた結果を整理し考察することができる。 4. 研究成果をまとめ口頭発表し、質疑に的確に回答できる。 5. 研究成果を論理的に論文としてまとめることができる。 				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身に付ける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	研究方法を説明し、グループワークを通して調査等を行う。				
回	授 業 内 容				
	<p>研究倫理について（研究倫理審査委員会委員長） 以後、卒業研究は各担当教員の指導の下に次のように研究を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①1年次後期に実施された卒業研究発表会に参加し卒業研究について概要を把握する。 ②各自の希望を基に決定された卒業研究担当教員の指導の下、研究テーマを検討する。 ③研究テーマを設定するための文献等の検索方法を学ぶ。 ④文献検索を行う。 ⑤文献をまとめグループディスカッションを行う。 ⑥研究テーマを設定する。 ⑦研究テーマに関する社会的背景を調べまとめる。 ⑧研究テーマに関する既往の研究を調べまとめる。 ⑨研究のすすめかたについてディスカッションを行う。 ⑩研究のすすめかたを見出す。 ⑪研究の展開を具体化する ⑫研究の実施計画を作成する。 ⑬予備実習、予備調査を実施する。 ⑭計画に則り、実習、調査を実施する。 ⑮研究計画を要旨にまとめる。 ⑯中間発表 ⑰これまでの研究成果をまとめ、大学祭においてポスターによる発表を行う。 ⑱適宜、結果を整理する。 ⑲適宜、まとめた結果を分析し考察する。 ⑳さらに、実習、調査を実施する。 ㉑結果を整理してまとめ、分析し考察する。 ㉒考察に関わる文献検索を行いまとめる。 ㉓考察に関わる文献についてディスカッションを行う。 ㉔序論と目的の作成を行う。 ㉕方法の作成を行う。 ㉖結果の図表を作成する。 				

回	授 業 内 容
	㉗考察の作成を行う。 ㉘論文をまとめる。 ㉙研究論文の抄録を作成し、研究論文とともに提出する(提出日及び時間厳守) ㉚研究をパワーポイントによるスライドにまとめ、卒業研究発表会で口頭発表する。
アクティブラーニングの取り入れ状況	担当教員の指導のもと調査等を行う(全回)。
事前学修	卒業研究は、これまでの学習の集大成である。今までの学習の中で関連のある分野の内容の復習を行うことが必要である。また、これから展開する研究内容の分野の参考文献を予習することが重要である。
事後学修	研究結果を考察しておく。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法	研究の進捗状況を把握し、助言をおこなう。
成績評価の方法と基準	卒業研究論文(60%)、卒業研究発表会(20%)、調査中の態度意欲(20%)
教科書	特に指定しない。
参考書等	適宜紹介する。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに準じる。
科目に関連する実務経験	特になし